

慈恵大学の  
「今」を伝える  
法人情報誌

# The JIKEI

VOL. 36

2021/Summer



Takashi Yokoo

私は研修医の頃から腎臓病をなんとかしたいと考えていました。本学の遺伝子治療研究部の研究員になったころ、幹細胞移植が注目され始め、壊れると元には戻せない腎臓の再生に、遺伝子治療で用いた幹細胞が使えるのではないかと考えたのです。

当初、周囲からは「実現はとても無理だろう」と考えられていました。しかし、そこで思いがけないサポートもあり、研究は一気に進み、自分でも信じられないと感じたことさえありました。

腎臓病の患者さんの中には、のどが乾いているのに水が飲めないという過酷な毎日を送っている方も多くおられます。「日々過ごせればいい」というだけでなく、好きなだけ水が飲めるようになって欲しい。それを実現するまで私は諦めません。

内科学(腎臓・高血圧内科) 講座担当教授

横尾 隆

# コロナ禍で延期された 第三病院の建築計画を 進めています



学校法人慈恵大学  
理事長 栗原 敏

2020年の年頭に新型コロナウイルスが日本に上陸したときには、緊張感が走りました。緊急事態宣言が発出され、密を避けて人流を抑制するために多くの職場ではテレワークが推奨され、夜の街の飲食が厳しく制限されました。大学では対面授業に代わりオンライン授業が行われ、臨床実習などが中止されました。緊急事態宣言によって、感染者数は減少しましたが、宣言が解除され、人の流れが再開すると第2波、第3波、第4波と波状的に患者数が増え、また、感染力が強い変異株が出現し、若い人の感染も増え、後遺症に悩まされている方が多いと報道されています。新型コロナウイルスは、大変、手ごわい相手だと認識を新たにしています。

本学でも予防接種が始まり、教職員、学生諸君が接種を受けましたが、安心して仕事をし、勉学に打ち込めるようになるまでには、まだ、時間がかかりそうです。全国医学部長病院長会議の調査によると、私立医科大学附属病院では、コロナ患者さんの66%を診ています。その中でも、本学の患者さんの受け入れはトップクラスです。また、本院は港区の要請に応え、港区民の予防接種会場に、旧外来棟を提供して社会貢献しています。

私は1971年に東京慈恵会医科大学を卒業しましたが、当時、抗生物質が出始めて、今後、感染症はあまり重要な研究分野ではないというような風潮がありました。しかし、耐性菌が次々に出現して、感染症と人間の闘いは永遠の課題だと認識されるようになりました。ウイルス性感染症も、新たなウイルスが出現するたびに、対応に追われています。新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、感染症の重要性が改めて認識されるようになり、医師育成課程における感染症の位置づけが見直されるようになることでしょうか。感染症はこれからも変わることなく、人類が立ち向かう重要な医学の課題であることを再認識させられています。

新型コロナウイルス感染症はあらゆる分野に多大な影響を与えています。本学の教育、研究、診療も、新型コロナ

ウイルス感染症の影響を受けていますが、学長、各附属病院長のリーダーシップによって、遅滞なくそれぞれの目標の達成に努めています。対面授業や密になる会議に代わって、オンライン授業やWeb会議が行われていますが、オンライン授業やWeb会議には、これまであまり気づいていなかった利点があることが認識されており、今後、一層、有効利用されていくものと思われます。遠隔授業にはそのための教材の作成が必要ですが、本学の教員の献身的な努力によって、素晴らしい教材が開発されていることが本号で取り上げられています。

各附属病院では、今年の4月以来、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れに努めています。本院では院内感染が発生して、一時期、外来診療を止め、入院の制限、手術件数の縮減などを行ったために、患者数は激減し、本学の財政に多大な影響が出ることが予想されました。それに伴い、事業計画の見直しを行うことになり、本号で取り上げられている第三病院建て替え計画を1年間延期することになりました。現在の第三病院の本館は昭和45年に竣工し、地域中核病院として機能してきましたが、建物の老朽化が進み、一昨年大雨では病院各所で漏水が起り、建て替えが求められてきました。中村敬前病院長の時に、「第三病院リニューアルタスクフォース準備会」で第三病院建て替えが検討され、現在、古田希院長を中心とする、「新第三病院プロジェクト委員会」に引き継がれています。そこでの検討結果は、西新橋で開催される「新第三病院建設プロジェクト統括委員会」に報告され、更に検討された上で具体的な建築計画が進められています。

第三病院には、狛江市、調布市の住民の方が多数来院されています。一昨年、両市長と面談の機会を設け、地域に密着した病院の構想について意見交換しました。今後、建築計画に両市の要望を採り入れ、また、患者さんの声に耳を傾けながら新第三病院の建築計画を進めていきます。

## 02 巻頭言

## コロナ禍で延期された第三病院の建築計画を進めています

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

## 巻頭特集

## 03

## 第三病院リニューアル事業における基本計画・基本設計

東京慈恵会医科大学附属第三病院 院長 古田 希

## Ongoing

## 09 01 教育

## Society5.0時代に一歩進んだ慈恵の教育

分子生理学講座 助教 中原 直哉

## 11 02 研究

## 慈恵発創薬の成功事例を目指して ～肝がんにおける新しいタンパク質分泌様式の発見～

生化学講座 講師 山田 幸司

## 13 03 診療

## 現在注目されているCAR-T療法キムリアの治療がはじまりました。

内科学講座(腫瘍・血液内科) 助教 横山 洋紀

## PDC から PDCA へ

## 15

## 2023年大学基準認証評価に向けた内部質保証の連携体制について

学校法人 慈恵大学内部質保証推進委員会 委員長 柳澤 裕之  
委員 小松 一祐

## 自己点検・評価から内部質保証へ

東京慈恵会医科大学内部質保証推進委員長 特命教授 福島 統

## Column

## 17

## 新任講座担当教授 紹介

## Nursing

## 19

## 附属病院看護師から 看護学科教員(在宅看護学)になって

医学部看護学科 講師 児玉 久仁子

## 20 News Flash

- 3月 第96回医学科・第26回看護学科卒業式挙行される  
令和2年度 退任記念講義・退任教授紹介・記念品贈呈式
- 4月 新入職員就任式  
宮崎大学との教育連携(宮崎市立田野病院での地域医療研修)について  
令和3年度 医学部入学式  
令和2年度入学生のための入学式を挙  
2021年 主な行事予定表
- 6月 新型コロナウイルスワクチン接種事業への協力支援について

## 25 Notice

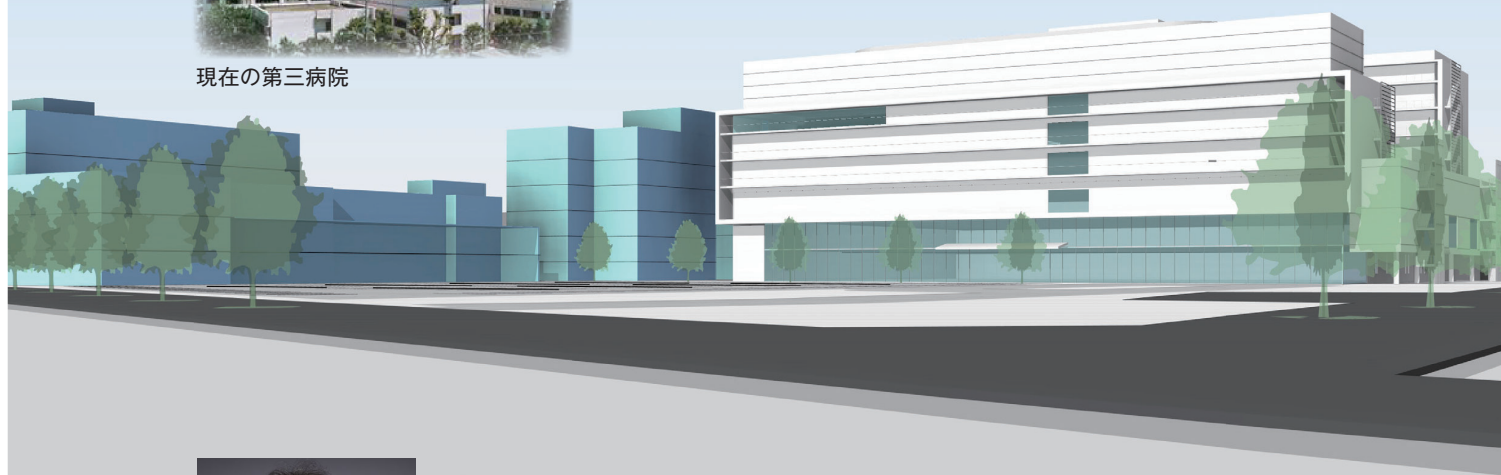
- 大学公報(行事/公示/学事/訃報/東京慈恵会公報)
- 補助金・助成金
- 財務報告
- 生涯学習・公開セミナー等
- 寄付のお願い
- ガバナンス(行動憲章/行動規範)
- 医療連携窓口のご紹介



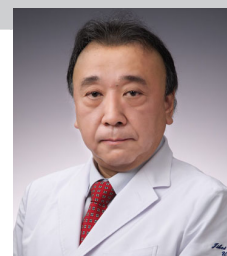
# 第三病院リニューアル 基本計画・基本設計



現在の第三病院



外観完成予想図



東京慈恵会医科大学附属第三病院  
院長  
古田 希

## ■ 病院の歴史とリニューアル事業までの経緯

東京慈恵会医科大学附属第三病院は、1950年に東京慈恵会医科大学の3番目の附属病院として開設されました。当初は第三分院という名称でしたが、1986年からは第三病院という名称で現在に至っています。当時の建物は木造建築でしたが、1970年に現在の9階建ての本館病棟が建築されました。以来、森田療法棟、新手術棟、新医局棟など増改築を重ねてきており、2021年4月現在、一般病床534床、結核27床、精神20床で、総床581床の大学病院として稼働しています。1970年

の本館建設から50年が経過し、建物の老朽化も進んだことから、第三病院リニューアル事業が計画されることとなりました。2015年4月にプロジェクト委員会の前身となる「第三病院リニューアルタスクフォース準備会」が中村敬前院長により組織され、2019年1月からは私が委員長を務める「新第三プロジェクト委員会」が発足し、同時に栗原敏理事長を委員長とする「新第三病院建設プロジェクト統括委員会」も組織され、リニューアル事業が軌道に乗って走り始めています。

# 事業における



## ■ 病院の理念とその背景

「学祖高木兼寛の“病気を診ずして病人を診よ”の教えに基づき質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し患者さんや家族から信頼される病院をめざす」というのが慈恵医大附属4病院共通の理念です。今回のリニューアルに向けて、新病院の理念は「シームレスな医療をもとに、地域社会に貢献する機能性と機動性の高い基幹病院」を理念に掲げました。「シームレスな医療」には、高度急性期、急性期から回復期、地域包括ケアへと切れ目のない質の高い医療サービスを構築すること、縦割りの診療ではなく、患者さん・家族の持つ問題点を横の連携を密にして包括的に

解決すると言った思いが込められています。「機能性と機動性」には、時代の変化に適切、臨機応変、柔軟に対応できる組織編成で効率的な医療サービスの提供、またタスクシフティングやタイムシフティングによる働き方改革の実現という思いも込められています。今後は、「医療」・「教育」・「研究」を通じて新たな事業を展開し、医療サービスのみならず、地域住民の暮らしと生きがいをともに創る「持続可能な地域共生社会」を構築し、地域活性化、地域再生計画の一旦を担い、社会に貢献する先駆的の大学病院を目指していきます。

## ■ 新病院の基本方針

今回のリニューアル事業は、以下の基本方針を基に教職員が一丸となり取り組みます。

- ① (高度)急性期から回復期、地域包括ケアまでシームレスで質の高い医療サービスを構築。
- ② 「共感と思いやりに基づく医療(Empathy Based Medicine)」を浸透させ、ひとりひとりの患者を尊重する病院を目指す。
- ③ 高齢者医療に対応する。
- ④ 健康推進センターを開設し、未病、予防医学を推進する。
- ⑤ 医療・教育・研究を通じて地域社会に貢献する。
- ⑥ 大規模災害時における事業継続及び地域住民への対応水準を向上させる。
- ⑦ ICTを活用した情報の共有化、業務効率化、患者サービスの向上を図る。
- ⑧ 将来の成長に対する柔軟性及び拡張性のある建物を計画する。
- ⑨ 教職員の能力が発揮できる魅力のある病院(マグネットホスピタル)を目指す。
- ⑩ 経営基盤の安定した持続可能な事業を計画・展開する。

以上のような基本理念と基本方針をもとに、具体的な基本計画、基本設計を作成しています。

## ■新病院の機能

リニューアル事業全体像においての新病院の機能は、「医療機能」・「地域貢献」・「健康推進事業」・「持続可能な事業展開」の4機能を中心としています。

医療機能では地域基幹病院としての役割を果たすために、5疾病4事業（僻地医療を除く）の医療提供体制を強化、充実させます。また、大学病院ならではの充実した専門医、他職種のコメディカルスタッフで構成されたチーム医療を実践することで、安心、安全でより専門的な医療を総合的に提供するために以下の6つの領域をセンター化します。

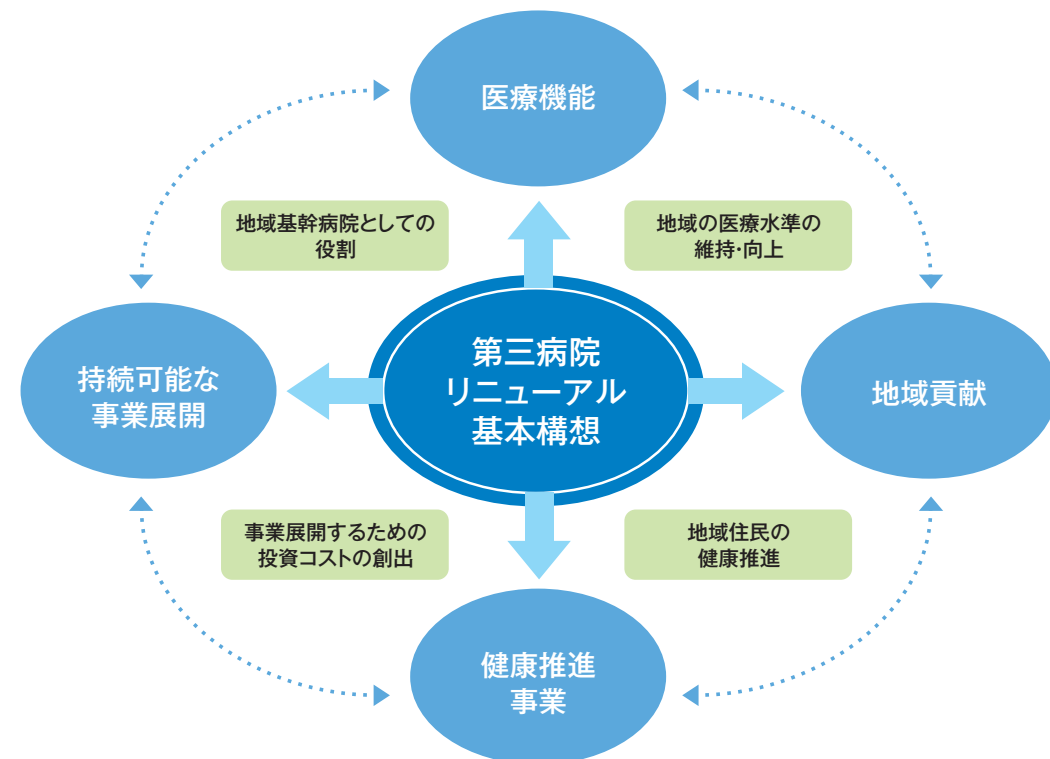
- ★ 消化器・内視鏡センター
- ★ デイサージャリーセンター
- ★ がん診療センター
- ★ 脳卒中センター
- ★ 健康推進センター
- ★ 認知症疾患医療センター

また地域医療ニーズに対応するために、地域連携ネットワークを通じて、高度急性期、急性期から回復期、地域包括ケアへとシームレスな医療サービスを構築します。

地域貢献では、本学と市区、医師会、保健所などと協働して、医療・文教・福祉事業、都市計画など全般にわたり本学の資源（医療・教育・研究）を活用し、地域社会に貢献する事業を計画することで、地域医療水準の維持・向上、地域活性化、再生事業に貢献します。

健康推進事業では、各種健診、がん及び生活習慣病などの早期発見、早期対処による心疾患・脳卒中発症リスクの低減、高齢化に伴う認知症及びフレイル予防対策など、疾病の早期発見、疾病の発生予防、健康増進支援事業に取り組むことを目的に健康推進センターを開設します。

持続可能な事業展開では、合理的かつ効率的な医療提供サービスによる健全で自立した事業活動を遂行します。また収益性のある持続可能な事業を計画します。



## ■計画の概要

新病院は現在の病院本館と病院3号館（医局棟）間の敷地に建設する予定で、地上8階建（地下なし）の予定です。併せて病院3号館を増築する予定です。これにより、従来別棟に配置されていた内科、外科などの医局がすべて病院3号館に収まることとなります。現在の病院本館・別館などは新病院開院後に解体し、駐車場・駐輪場とする予定です。



外観完成予想図

## ■新病院の概要

新病院の病床数および診療科目は以下の表のように予定しています。

地域事業機能病棟（一般急性期病棟2）は、一般床のうち、ポストアキュート、サブアキュートの入院受入機能と、医師や看護師、リハビリスタッフ、MSW、訪問スタッフ等が関わる在宅復帰支援が積極的に展開で

きる病棟環境を整備します。また、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の疾患に対し、ADL能力の向上による自宅復帰を目的とした退院プログラムを医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSW等が協働し、リハビリを集中的に行える病棟として使用していきます。

### 病床数

区分	病床種別	病床数	備考
一般急性期病棟1	一般病床	382床	産科、婦人科・小児科・感染症対策病床、全室個室病棟22床含む
一般急性期病棟2（地域事業機能）	一般病床	91床	リハ病床、地域事業機能床を含む
緩和ケア病棟（地域事業機能内に設置）	一般病床	21床	
精神病棟	精神病床	15床	森田病棟
計		509床	新病院494床（森田除く）

### 診療科目

区分	診療科
診療科	総合診療部、消化器・肝臓内科、脳神経内科、腎臓・高血圧内科、リウマチ・膠原病内科、循環器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、腫瘍・血液内科、呼吸器内科、精神神経科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、リハビリテーション科、歯科、麻酔部、放射線部、救急部、内視鏡部



## ■部門別基本計画

外来部門は「断らない」「すぐに診る」「待たせない」外来診療を目指し、地域性を考慮した総合的な外来診療を中心に、多様化する患者ニーズに合わせた診療を展開します。また各診療科や部門の医療従事者によるチーム医療を推進し、質の高い医療を提供できる環境に整備します。また近年の外来化学療法患者の増加に対応し、外来化学療法室を17床に増床します。

救急・初診外来部門は、地域の基幹病院として救急搬送件数の増加と救急車の不応需件数を削減しながら、初診患者にも十分対応できるよう整備します。救急部門は、内科や外科等の主要診療科の外来診察エリアの動線に配慮するとともに、放射線部や内視鏡センター、手術室等の連携を考慮したエリアに配置します。

病棟部門は一般病棟による急性期医療が中心ですが、緩和ケア病棟を新設します。また、将来の成長と変化に対応でき、多機能施設への転換が可能な地域事業機能病棟を計画します。原則として混合病棟として運用し、多職種からなるチーム医療の実践や看護サービスの向上、医療安全や感染管理に配慮した病棟でプライバシーの確保やアメニティの向上による患者の快適性や利便性を高めたいと考えています。

## ■基本設計について

2020年12月に第三病院リニューアル事業基本計画書の完成をもって、局面は新たな段階、基本設計へと進みました。基本設計では、これまでの基本計画を図面に落とすために具体的な情報を各部署、部門ごとにヒアリングを実施して、決めていく工程となります。2021年4月からは、外来・救急ワーキング・グループ(WG)、病棟WGなどを中心に45部門を対象として、基本設計図書を作成するためのヒアリングを開始しています。現時点では、1Fに救急・初診外来・小児外来を配置すること、2Fに他全診療科の外来を6ブロックで運用することなどが決まっています。今後、各部署へのヒアリングにより受

病棟の院内感染対策としては、空調設備の充実、病室内に手洗いを設置、廊下側に速乾性手指消毒剤、手袋や各種感染予防に使用する物品が取まるように配置します。接触感染予防として北側の急性期病棟には、個室を、空気感染予防として前室のある陰圧室2室、簡易陰圧個室1室を各病棟のスタッフステーションに近接設置、陰圧室への入室動線は、一般の入院患者の動線と区分した計画とします。また、今回の新型コロナウイルス感染のような大規模感染が発生した際には、病棟の一部を感染エリアに転換、特定の病棟全体を感染エリアに転換することができるような構造を計画しています。

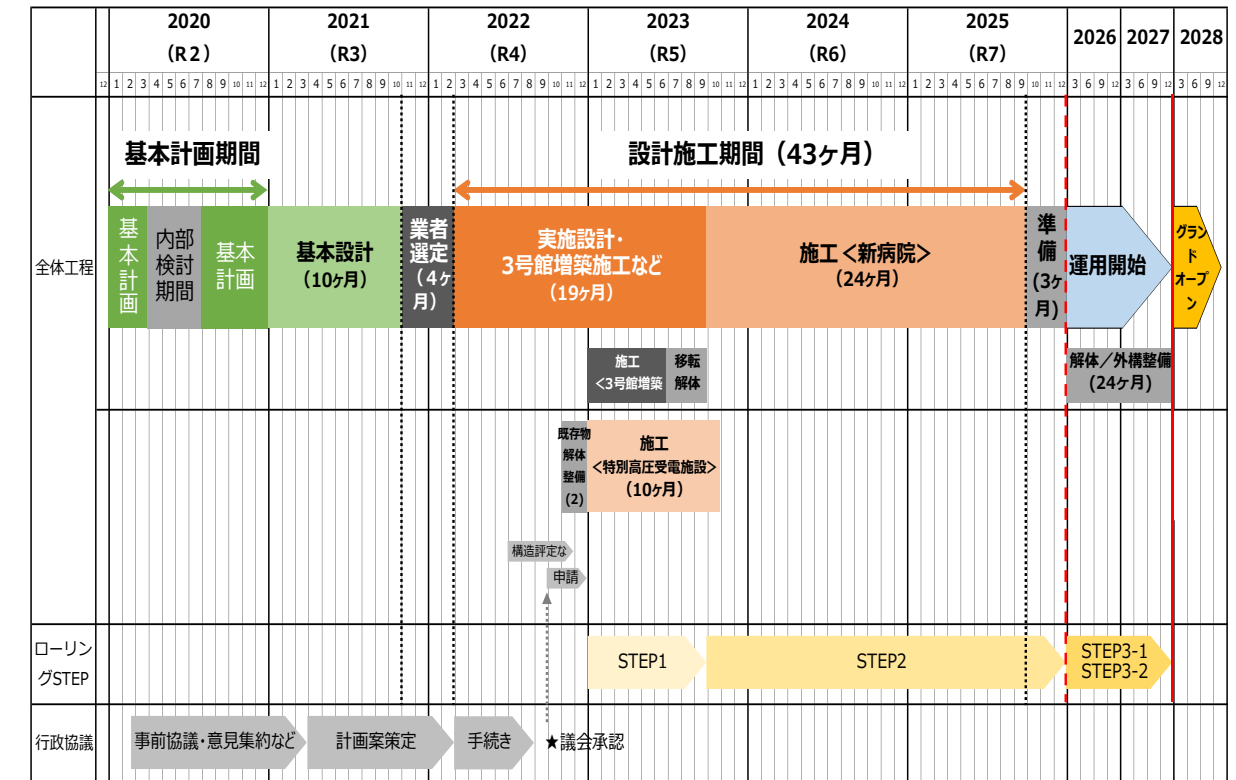
手術室は10室で、他に1室分の予備スペースを確保し、将来ロボット支援下手術やハイブリッド手術などに対応できるようにします。年間7000件を手術目標件数とし、デイサージャリーセンター設置による日帰り治療にも応需します。手中治療室はHCU12床で対応し、将来必要に応じてICUとして申請可能な建築計画とします。

このほか造血幹細胞移植を実施するための無菌室3室、簡易無菌室3室の開設、分娩数増加に対応するための分娩室、陣痛室の増室も予定しています。

付・診察室・処置室等の配置、諸室数、各諸室形状・設備などの詳細が決定することになります。病棟部門では、一般病棟で内科系、外科系、全科共用と大きく区分けた病棟構成とし、病床の診療配分は固定化せず、円滑な病床管理を目指します。急性期医療を中心に臓器別の診療機能や診療科特性に応じた混合病棟構成としますが、詳細は今後、病棟運用の検討を重ねて決めていきます。

2021年6月中旬までにヒアリングを終了し、2021年10月頃までには基本設計図書を完成させたいと考えています。

## ■今後のスケジュールについて



マスタースケジュールの前提条件  
 ※基本設計後のデザインビルド方式での工事発注(3号館増築、新病院建設地廻りの解体工事など事前工事含む)を想定。  
 ※設計施工者の業務期間の内訳(設計、施工、3号館増築等の各期間)は、現段階での想定。設計施工者の考え方や技術提案内容によって変動する。  
 ※今後、新病院の計画内容や設計施工者の選定方法等の詳細に応じて、最終的な設計施工者業務期間を設定する。  
 ※基本計画、基本設計及び設計施工者選定期間において、コロナ感染症等により会議やWGの中断・休止期間が生じた場合は、スケジュールを再調整する。  
 ※都市計画・行政協議は、柏江市役所等との協議状況によって、今後、想定スケジュールが変更となる可能性がある。  
 その場合は、設計施工者の業務内容(3号館増築部分の確認申請の扱いなど)について改めて調整を行う。

## ■まとめ

2020年1月から猛威を振っている新型コロナウイルス感染症は、2021年4月時点において第4波が進行中です。このため第三病院リニューアル事業も当初の計画よりも1年ほど遅れが生じています。それでも、今回ご紹介したように、すでに基本計画は完成、基本設計も中盤に差し掛かった状況です。順調に計画が進行すれば、2023年秋には新病院の建設に着工、2025年秋に竣工し、2026年1月には開院の運びとなります。我々は、老朽化した建物を単に新設するということにとどまるつ

もりはなく、その基本理念・構想に掲げたコンセプトに基づくリニューアルを成し遂げ、地域の医療ニーズに対応し、将来も発展可能なフレキシビリティにあふれた病院にしたいと考えています。そのために、今後は様々な新規事業や改革を予定しておりますが、これらは今現在から、たゆまぬ努力を継続してこそ成しえることができると承知しており、今後も病院スタッフ一丸で取り組んでゆく所存です。

# 01 Ongoing 教育

分子生理学講座  
助教 中原 直哉



## Society5.0時代に 一歩進んだ慈恵の教育

### Society5.0とは

Society 5.0とは社会の大きな変革を表す5段階目で、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、「超スマート社会」を指します。人工知能(AI)の発達やビッグデータ、通信技術の発達によるIoT(Internet of things)、ロボット技術の発達などにより社会の在り方そのものも変わる新たな未来社会の姿として提唱されました。医療でいえば、様々なテクノロジーの発達により実現される遠隔地での手術や、スマートウォッチをはじめとするウェアラブルデバイスにより病気の早期発見や健康増進などもSociety 5.0で実現される事例の一つです。

### 教育におけるSociety5.0とは

教育におけるSociety5.0に関する変革として文部科学省大臣懇談会からの提言では個人個人に合わせた教育の実施があり、画一的な講義から個人の進捗や能力、関心に応じた学びへの転換が求められています。学生を一堂に集めて行う従来の講義形式は、多くの人に一齐に指導する点で簡便且つ効率的と思われてきました。しかしながらインターネットをはじめとする情報技術の革新はいつでもどこでも必要な情報を学ぶ環境を提供できるようになっています。具体的には、従来はテレビの料理番組で流れてくる情報をメモし実践するというのが一般的だったのに対して、今や料理のレシピ動画をYouTubeで調べるように変化してきています。これはSociety5.0時代の教育が求められている変化に非常に近いと考えられます。料理をする人の背景に応じてどの動画を選び、

進捗状況に応じて一時停止や巻き戻しといったツールを使うのは一つの個別化された個人の進捗や能力、関心に応じた学びの形とも考えられます。

### 慈恵における教育の変化

慈恵においては今までの一堂に集めて行う講義形式を実施してきました。しかし、2020年初頭より広まってきた新型コロナウイルス感染症により、学生は「大学へ来て学ぶ」という今まで当然と思っていた日常は奪われ、講義はオンラインへと移ることを強いられました。学生の顔をみながら話していた内容をパワーポイントの録音機能で吹き込み、それを学生が自宅からみられる状況を整備しました。慈恵ではZoom等のようなリアルタイムの実施ではなく、多くの授業を見たい時に見られるオンデマンド型のMoodleというシステムを使った授業を実施しています。これはまさしく先ほどのYouTubeの料理動画と同じであり、学生個人の進捗や能力に合わせた受講が出来るという点ではSociety5.0時代の教育の入口とも考えられます。私はオンデマンド授業のサポートを教育センターとともに行っていく中で先生方の資料を拝見する機会がありました。急遽作って頂くことになった2020年度でも多くの先生方から学生が学びやすいように変更した授業動画・資料を作製して頂いただけでなく、2021年度ではよりブラッシュアップしたものになり慈恵としてオンデマンド配信は着実な発展を遂げていることを感じております。

また、今まで授業を聞いていた学生の理解度を確認する上では質問に来る学生と話す程度だったと思いますが、質問に来る学生というのは一部の学生に限られてし

### 東京慈恵会医科大学eラーニング



まうといったデメリットがありました。しかしながらコロナ禍で変化したオンデマンド授業では授業での双方向性を再現するために授業ごとに一つ課題を付けることが必要になりました。これは今まで質問に来なかったような学生の理解を確認できるというだけでなく、その課題の添削を通じたフィードバックをすることで、各学生への個別化された学びを提供することが出来ます。一人一人へのフィードバックが難しい場合でも、提出物への総括としてフィードバックすることも個別化に近づいた方法の一つかと思えます。加えて従来では質問に来た学生にのみ答えるといったことが多かったと思いますが、オンデマンド型に移行するにあたって、質問を学生全体へ共有・フィードバックする仕組みとして各学年に「授業FAQ」という質問とその回答がみられるページも用意されています。これらにより各学生は他の学生の質問などから自分の理解を確認するきっかけになっていると考えられます。このように思いがけず急速に進んだ慈恵のオンデマンド授業は従来の形式と比べてSociety 5.0時代の教育へ一歩進んできたと考えられます。

### よりよい教育を目指して

実際に学生の視聴履歴をみると、今まで医学科の授業では講義への出席を学生の主体性に任せていたためにすべての授業に出る学生ばかりではありません

でした。しかしながらオンデマンド授業では課題は出さな

いが資料や授業動画の閲覧している学生を含めると今までの授業とは比べ物にならない学生たちが閲覧していることがよくわかります。また多くの学生が持っているスマートフォンでいつでもどこでも見られるので、臨床実習で回る科を通学時間でもう一度復習するといった使い方なども今後考えられる利用法です。これまでは実習を回ってから前の学年の資料を探して勉強していたものが、今や手持ちのスマートフォン一つでいつでもどこでも出来るようになったのです。

また以前は、他の学年の授業を学習しようとしても難しい面がありましたが、医学科では2021年5月から基本的に全学年の授業を閲覧可能として、興味のある科目を予習したり、臨床を学んでから関連する基礎の部分を相互に学習するなど幅広い使い方ができる環境が整っています。更に2020年度の講義資料も見られるようにし、最終的には6年分を閲覧可能にすることで、6年生になった時に1年生の資料がみられる環境を構築する予定です。また、教員側も全ての授業を見られるため、関連する分野での別の教員の表現や繋がりを確認して、「興味がある人は～の授業も見るとよい」などの横や縦のつながりを付けた幅広い授業を展開することが出来ます。

学生の閲覧や提出物などを学習ログ(学びのポートフォリオ)として残し、それを活かした指導等もSociety5.0で求められています。更に感染症の広まった状況でも現場にいるのに近い学びを提供するためにVR技術やAR技術、5Gなどの通信技術も合わせた技術の進歩を取り入れる必要性も高まってきています。その時に応じた工夫や技術を取り入れてアフターコロナでも前に戻るのではなく、新しいSociety5.0時代の教育に向かって慈恵が進んでいくよう今後ともご協力



スマホでみられるため  
いつでもどこでも学習ができます



# 02 Ongoing 研究

生化学講座  
講師 山田 幸司



## 慈恵発創薬の成功事例を目指して ～肝がんにおける新しいタンパク質分泌様式の発見～

### はじめに

近年、分子標的薬をはじめ、がん免疫療法、遺伝子治療法、再生医療など従来の概念とは異なる治療法が次々に開発され、医療は目覚ましい進歩を見せている。私は現在、基礎と臨床を創薬によって結ぶ橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)に挑戦している。特徴としては、基礎生物学からアプローチして新しい現象を発見する。次にその現象が関わる疾患を特定し、その臨床上の課題に対して創薬で解決するというものだ。本稿では、現在手掛けている研究について紹介したいと思う。

### がんにおける 新しいタンパク質分泌現象の発見

私の研究テーマは「タンパク質局在の多様性」であり、従来は細胞内(細胞質や核など)だけに移動制限されているはずの細胞内タンパク質が細胞外に存在する現象に着目して研究を進めている。今回はその成果として、プロテインキナーゼCデルタ(PKC $\delta$ )という細胞内リン酸化酵素が生きた肝臓がん(肝がん)細胞から自発的に分泌されていることを発見した(文献1, 図1)。このPKC $\delta$ の分泌現象は、正常の肝細胞では見られず、肝がん細胞だけという特徴を持つ。

腫瘍組織の外液成分中における細胞内タンパク質の検出は、一般的に腫瘍組織内で起きるストレス等による壊死性の細胞膜破壊が原因と考えられてきた。一方で我々は、マウス腫瘍モデルにおいて生きた腫瘍細胞がPKC $\delta$ を

分泌している可視的な証拠を得ることに成功した。つまり、これまでの概念は刷新され、細胞内タンパク質の分泌が腫瘍組織内で起きていることがわかった。さらに細胞外のPKC $\delta$ が肝がん細胞の表面に結合して、増殖や腫瘍形成能を促進させる作用を持つことも突き止めた(図1)。これらの成果を通して、この新しい分泌系が肝がんを理解する上で重要な機構に相当すると確信しており、今後、基礎、臨床の側面から様々な解析が国内外で行われるものと推測している。

### PKC $\delta$ 分泌は肝がん創薬の 標的になる

我々は本院消化器・肝臓内科と共同研究体制を築き、患者血清を用いて血中PKC $\delta$ を測定した。その結果、健康者や慢性肝炎・肝硬変患者に比べて、肝がん患者では血中PKC $\delta$ が有意に高い数値を示すことがわかった(文

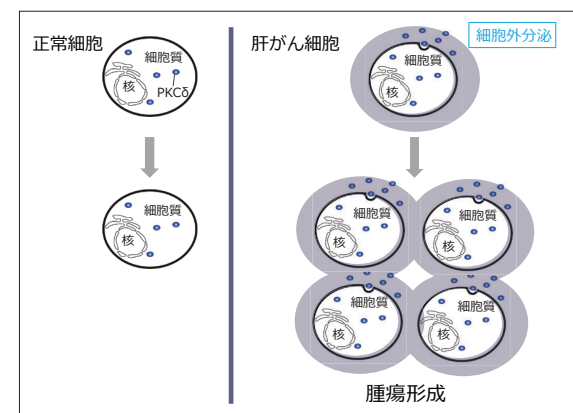


図1: 肝がん細胞はPKC $\delta$ を分泌することで腫瘍形成を促進している



献1, 図2)。加えて既存の肝がんマーカー(AFPやPIVKA-II)でがん陰性と判定された肝がん症例においても血中PKC $\delta$ 値は有意に高いことがわかった。これらの結果から我々は、血中PKC $\delta$ が肝がんの診断精度を現在の水準より向上させるバイオマーカーになるのではないかと推察している。現在までに、日本医療研究開発機構(AMED)橋渡し研究慶応拠点シーズ支援を受けるとともに、製薬系企業と産学連携をとりながら血中PKC $\delta$ を測定する体外診断用医薬品(検査キット)の共同開発を進めており、早期実用化を目指している。

またPKC $\delta$ のモノクローナル抗体を肝がん細胞に処理すると、細胞増殖能が阻害された。加えてPKC $\delta$ 抗体を担がんモデルマウスに投与することで、腫瘍の大きさがコントロール群と比べて有意に縮退した。これらの結果から、細胞外のPKC $\delta$ が抗体療法の標的候補になることが判明した。こちらに関しても現在、製薬系企業と連携して抗体医薬品シーズの開発を進めている。今後は非臨床POC取得を目指して慎重かつスピード感を持って研究開発に取り組んでいく。

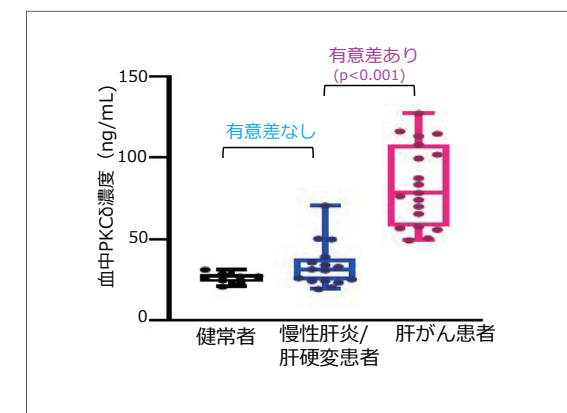


図2: 血中PKC $\delta$ 濃度は肝がん患者で高値を示す(文献1より)

肝がんは未だに難治性の疾患であり、新しい診断法や治療法の開発が喫緊の課題となっている。我々はこれからも慈恵人の一員として、患者や肝がん医療向上のための診断薬・治療薬開発を推し進め、一日でも早く研究成果を医療現場に届けたいと思っている。

### 最後に... 研究マインドを育み創薬の未来を築く

私の研究はその中核となる基礎研究を学部学生と行っている。ゆえに学生の成長が研究の質に大きく影響することになる。私はこれまでに4人の学部学生とともに基礎研究を進めてきたが、そこで指導しているのは『新しいことをしよう』というスローガンである。「普通のことは他の人に任せて、我々にしかできないことをやろう」。人と違うことをやると、前例がないので何をやっていいかわからないし、失敗する確率も高い。それゆえ皆やりたがらないのである。しかし誰かが人と違うことにチャレンジしなければ、医療も科学も進歩しないではないか。誰もやったことのないことに挑戦することは、とてもエキサイティングであり、時に思いもよらない発見につながる。権威や時流に合わせて点数稼ぎをする優等生ではなく、失敗や批判を恐れず勇気を持って実行する「先駆者」であるべきである。私はこれからも高い研究マインドを持つ学部学生や数多くの慈恵内外の共同研究者と一致団結して「慈恵発創薬」の成功を目指していく。

### 参考文献

- 1) Yamada K, Oikawa T, Kizawa R, Motohashi S, Yoshida S, Kumamoto T, Saeki C, Nakagawa C, Shimoyama Y, Aoki K, Tachibana T, Saruta M, Ono M, Yoshida K. Unconventional secretion of PKC $\delta$  exerts tumorigenic function via stimulation of ERK1/2 signaling in liver cancer. *Cancer Research*. 81: 414-425, 2021



# 03 Ongoing 診療



内科学講座(腫瘍・血液内科)  
助教 横山 洋紀

## 現在注目されている CAR-T療法 キムリアの治療がはじまりました。

### はじめに

2021年2月9日に東京慈恵会医科大学附属病院は新規の細胞治療であるキメラ抗原受容体発現T細胞(CAR-T)療法キムリアの治療提供可能施設として認定されました。本邦において治療提供可能施設はまだ24施設ですが(2021年5月現在)、認定を受けるまでに約半年間の準備が必要でした。予定通りの準備期間で承認を受けられたのは、病院長、細胞加工施設JIKEI-CPF、輸血・細胞治療部、集中治療部、看護部、薬剤部、中央検査部、病院事務部のみなさまのおかげであり厚く御礼申し上げます。本稿ではCAR-T療法の製造過程から治療までの流れを含めたこの新規治療の紹介を分かりやすく説明させていただければと思います。

### CAR-T療法とは

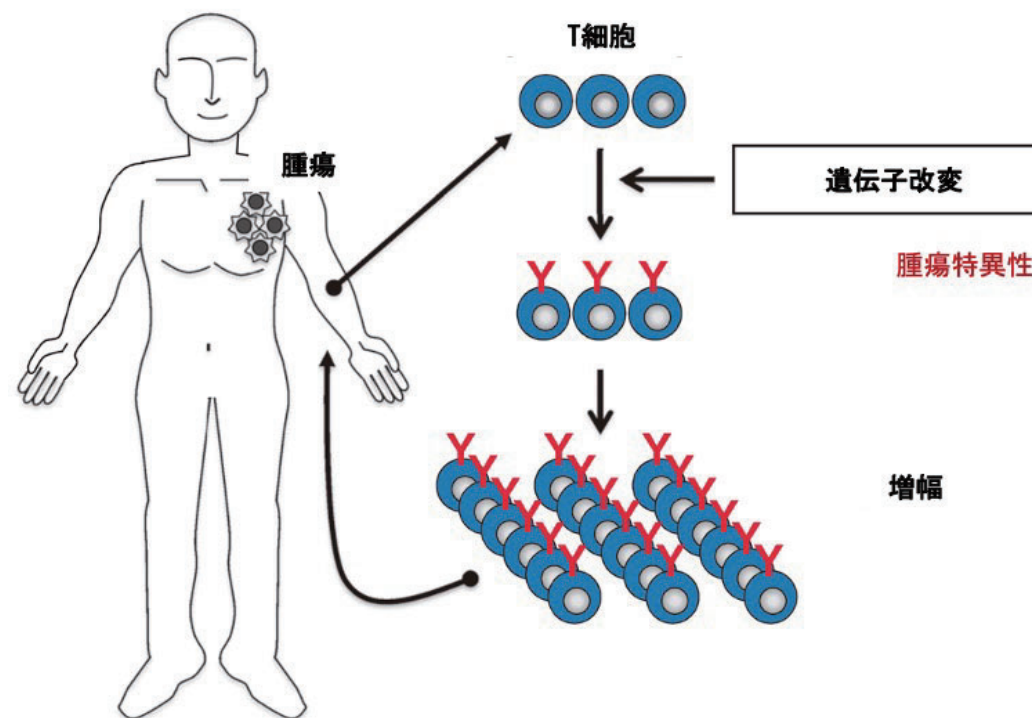
体内では免疫の働きにより、病原体やがん細胞を攻撃し排除します。主に好中球、リンパ球(T細胞、B細胞)、単球がその役割を担っています。T細胞は樹状細胞などとともにがん細胞を排除しようとしませんが、がん細胞の一部でこの免疫から逃れてしまい、がん細胞が増殖し続けてがんを発症すると考えられます。CAR-T療法はこのような通常の免疫機能では抑えられないがんに対する新しい免疫細胞療法として開発されました。患者さんのT細胞を輸血・細胞治療部において白血球アフェレーシスと呼ばれる処置で採取し、すぐに細胞加工施設JIKEI-CPFの厳重管理下で細胞調製・保存を行います。その後出荷し、製造過程を経て製品キムリアが入荷する

のを待ちます。製造とは遺伝子医療技術を用いてCARと呼ばれる特殊なたんぱく質が造られるようにT細胞を改造します。B細胞がんのがん細胞に特有のたんぱく質を認識できることで攻撃性を高めています。これをCAR-T細胞と呼びます。患者さん自身のT細胞を用いて製造し、それを投与して患者さん自身の免疫システムで治療を行う画期的な免疫細胞療法がCAR-T療法です(図参照:臨床血液 56(10):2180~2185, 2015より引用、一部改造)。CAR-T細胞は体内で増えることができるため、継続してがん細胞を攻撃し再発を防ぐことが期待できます。

CAR-T細胞療法の注意点として、T細胞を採取してから製造完了し患者さんに投与できるまでに6週間程度の時間を要することです。その間は化学療法で進行を抑えておかなければならないですが、再発・難治性のB細胞がんの患者さんのため抑えに難渋してしまう可能性があります。また、原疾患と治療により感染症などの様々な合併症の管理も必要です。もう一つの注意点として、投与後にサイトカイン放出症候群や重篤な神経系事象などの副作用があらわれることがあります。治療開始1週間に半数近くが集中治療部での治療が必要であったことが臨床試験で示されており、当院においても投与前に集中治療部と情報共有を行って治療日程を立てるようにしています。

### 治療適応疾患について

B細胞がんの中で、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)とB細胞性急性リンパ芽球性白血病(ALL)がCAR-T療法キムリアの治療適応疾患です。国立がん



研究センターがん対策情報センターが公開している2020年の部位別予測がん罹患数で男性9番目、女性7番目に多いがんが悪性リンパ腫であり、その悪性リンパ腫の中で約30~40%を占める最も多いタイプがDLBCLです。DLBCLに対する初回治療はリツキシマブと化学療法の併用療法(R-CHOPなど)が標準治療ですが、完全寛解に至らずに腫瘍が残存してしまったり、完全寛解後に再発してしまった場合には、初回治療よりも強力な救援化学療法を行い、その後に大量化学療法併用自家造血幹細胞移植を計画します。しかし、自家造血幹細胞移植は体への負担が大きく、年齢(70歳以下が適応)や内臓機能によっては治療を受けられない患者さんがいます。CAR-T療法は、このような自家造血幹細胞移植を受けることができない、もしくは自家造血幹細胞移植を受けたがそれでも再発してしまった再発・難治性のDLBCLの患者さんが治療適応となります。

ALLはDLBCLよりも少ないがんですが、進行が早く初回治療で半年以上の期間をかけて防護環境病棟(いわゆる無菌室)に入院して化学療法を繰り返し受けなければならない疾患です。完全寛解でも再発しやすいと予後予測される場合は完全寛解の状態でも積極的に同種造血幹細胞移植を計画します。同種造血幹細胞移植は自家造血幹細胞移植と同様の大量化学療法に加えて、

ドナーは他人のため移植後には移植片対宿主病(GVHD)と呼ばれる合併症管理のため免疫抑制剤が必要であり、GVHDや様々な感染症発症リスクが高い治療方法です。そのため、体への負担からこの治療方法を受けられずに化学療法を繰り返しても完全寛解まで至らない、もしくは同種造血幹細胞移植を受けたが再発してしまったALLの患者さんが治療適応となります。ALLに関しては25歳以下の年齢制限があります。

### おわりに

当院でCAR-T療法が治療開始となり、治療の概略を紹介いたしました。2021年4月には日本造血細胞移植学会の名称が日本造血・免疫細胞療法学会に変更となったことから、今後の細胞治療で造血幹細胞移植と同じように発展していく注目の治療方法であると考えられます。まだ国内で治療承認施設が少ないですが、当院ではCAR-T療法キムリアが治療選択肢として検討できることは再発・難治性で闘病している患者さんにとって喜ばしいことであると思います。CAR-T療法キムリアの製造には様々な部署の協力が必要であり、関係者の方々と相談しながら適切なCAR-T療法キムリアが提供できるようにしていきたいと考えています。



## 2023年大学基準認証評価に向けた内部質保証の連携体制について



学校法人 慈恵大学  
内部質保証推進委員会  
委員長  
柳澤 裕之  
委員  
小松 一祐

大学は、大学基準協会等の外部機関から7年に1回の認証評価を受けることが義務付けられています。

認証評価は、現在第3期を迎えており、第1期、2期については東京慈恵会医科大学内部質保証推進委員会委員長の福島統教授の原稿をご参照ください。ここでは、本学が受審する大学基準協会の第3期認証評価のポイントについて紹介いたします。

第3期認証評価では、学長のリーダーシップのもと、大学全体の教育、研究の諸活動について、PDCからPDCA（計画、実施、チェック、改善）への取り組みに変更することが求められています。また、文部科学省の諮問機関である中央教育審議会から、PDCAサイクルによる内部質保証を軸とした「学修成果」重視の視点に立った教育の改善・改革の重要性が提言されました。

2018年には、中央教育審議会では教学マネジメントの一環として、「3方針」（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を起点に展開される「内部質保証」の位置づけとともに学生の学修成果の可視化が重要とされています。

このような経過を踏まえ、本学における

大学基準協会第3期認証評価への具体的な対応について述べます。

本学は、次のような法人全体の内部質保証に関する方針として、内部質保証の考え方の策定と組織体制を構築していきます。

### 1. 内部質保証の考え方

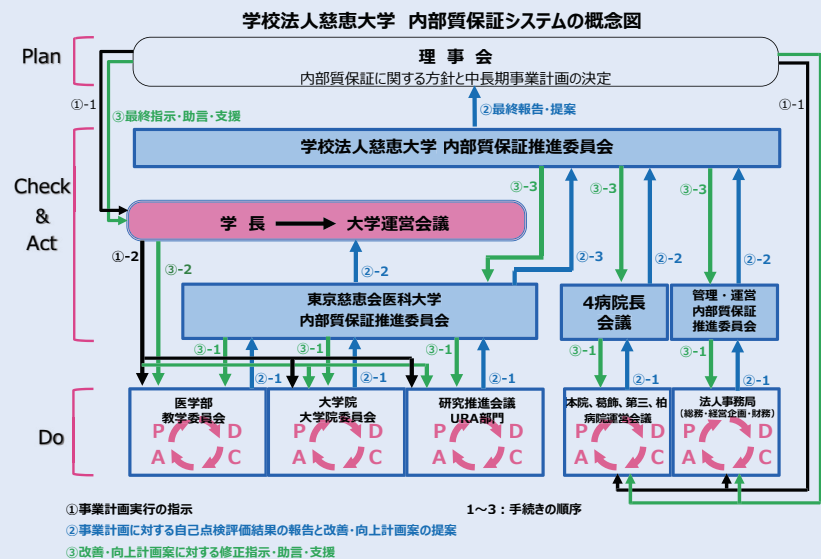
学校法人慈恵大学は、建学の精神、目的・使命を実現していくために、本学の教職員及び各組織は、諸活動について自ら点検・評価を行い、その結果をもとに改善に努め、恒常的に質的水準の向上と質の保証に取り組みます。また、これらの取り組みについて社会に公表して説明責任を果たします。

本学は教育、研究、医療、管理運営の各分野（以下「4分野」という）のPDCAサイクルを機能させ、理事会による管理運営を基盤とした教育、研究、医療の活動を通して、社会に貢献します。

### 2. 組織体制

#### <学校法人全体>

学校法人慈恵大学全体の内部質保証は、理事会のもとに組織する学校法人慈



恵大学内部質保証推進委員会が、4分野の中心的役割を担います。学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会は、内部質保証に関する基本方針を策定し、4分野の自己点検・評価と改善・向上計画をとりまとめ、諸活動の質向上について協議し、理事会に報告します。

理事会は4分野における諸活動の改善・向上を支援します。

法人全体の内部質保証システムの概念図を示します。

#### <分野>

##### 1) 教育分野、研究分野

学長を中心とした全学的な教学マネジメントを行う大学運営会議のもと、東京慈恵会医科大学内部質保証推進委員会が、医学部と医学研究科の教育、研究、看護専門学校の教育の諸活動についての内部質保証の推進を担当します。

##### 2) 医療分野

院長を中心として組織する4病院長会議が、附属4病院における医療の諸活動についての内部質保証の推進を担当します。

##### 3) 管理運営分野

理事と法人事務局職員を中心として組織する管理運営内部質保証推進委員会が、管理運営に関する諸活動について内部質保証の推進を担当します。

今後は、上記の内部質保証に関する方針をもとに、2022年～2027年の6年間の中長期事業計画を作成していきます。中長期事業計画策定ののち、事業活動を実施し、自己点検・評価と改善・向上を行っていくことになります。

教職員全員のご協力をお願いいたします。

## 自己点検・評価から内部質保証へ



東京慈恵会医科大学内部質保証推進委員長 特命教授  
福島 統

「サッチャー・レーガン・中曽根・小泉」という標語を覚えている人はいますか？ 新自由経済政策、小さな政府・規制緩和の流れです。余談ですが、レーガン大統領は、自分の政権に相反する主張の持ち主、シュルツ国務長官（ハト派）とワインバーガー国防長官（タカ派）を入れ、徹底的に討論させてから政策を決めたことで有名です（これはケネディーが仲良しグループで閣僚を組織した失敗に学んだものです）。話を戻します。小さな政府・規制緩和で大学の評価は大きく変わりました。1991年に大学設置基準が大綱化され、それまでは文部省が設置基準でガチガチに抑え込み、大学は自分たちが何かしたくても何もできない世界でした。1991年に大学は初めて自由を手にしたのです（何せ初めてのことであったので、よちよち歩きでした）。自ら自分を律するために「自己点検・評価」という方法を採用しました。このころ、盛んに言われたのが生産ラインで用いられるPDCAです（Plan、Do、CheckそしてAct：すべて動詞、ここでActionと言ったら教養のなさがばれてしまいますので要注意）。大学の主務は、「教育・研究」です。教育した人たちが社会に出て他者貢献という仕事をし、大学は教育の基盤である研究活動を行いその研究成果を世界の人々に還元することで社会貢献するのが大学です。慈恵医大は日本国民、世界市民のための医師と看護師を育て、さらに研究を通して世界市民の役に立つ、これがスクール・ミッションです。この「使命」、いや「誇り」を果たすには、過去から学び今を振り返り、明日に備え、さらなる高みに向かう仕組みを私たちは持たなければなりません、しかも自立的に、そして本学らしい形で。大学自身による自己点検・評価は社会に公表するだけでなく、「認証評価」というシステムで国が認定した第三者評価機関（本学の場合は、大学基準協会）によって検証されます。本学は医学と看護学の大学ですが、医学教育も看護学教育も学部レベルでは分野別評価も受けています。2021年看護学科は日本看護学教育評価機構、2022年医学科は日本医学教育評価機構から分野別評価受け（医学科はこれで2回目の分野別評価）、そして大学本体としては2023年に大学基準協会による認証評価（3回目）を受け、日本国民と世界市民へ本学の活動を公表します。「自己点検・評価」という言葉にはPDCAのP、D、Cは含まれていますが、自己点検・評価した結果として改善点が見つかるはずで、その改善点を改善するActが不明確でした。そこでもっと改善・改革・向上に焦点を当てた「内部質保証」という言葉が用いられるようになりました。改善することで大学の活動の質を担保するだけでなく、向上させる、日本国民、ひいては世界市民のために。大学の教職員、そして学生は次の慈恵医大のステップのために、この評価活動にしっかりと参加しなければなりません。私たちは、解剖体とその家族の方の気持ち、医療の勉強を助けてくれる患者さんとそのご家族の気持ちを頂き、そして経常費補助金という税金を医師・看護師養成に、科研費という税金を研究費に交付してくださる国民のための大学として。



病理学講座  
下田 将之

消化管病理、細胞外基質代謝・酵素を専門としております。歴史・伝統のある講座の更なる発展に貢献できるよう、臨床、研究、教育、病理診断医/研究者の育成に励んで参ります。御指導御鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

- 略歴：平成12年 慶應義塾大学医学部卒業
- 平成12年 慶應義塾大学大学院医学研究科(病理学専攻)
- 平成16年 慶應義塾大学医学部病理学教室助手
- 平成19年 慶應義塾大学医学部病理学教室助教
- 平成22年 パターソン癌研究所(英国) 博士研究員
- 平成23年 オンタリオ癌研究所(カナダ) 日本学術振興会海外特別研究員
- 平成24年 慶應義塾大学医学部病理学教室助教
- 平成26年 慶應義塾大学医学部病理学教室専任講師
- 平成31年 慶應義塾大学医学部病理学教室准教授
- 令和3年 東京慈恵会医科大学病理学講座担当教授

- 出身地：東京都
- 趣味・特技：旅行、家庭菜園

2021年4月1日公示



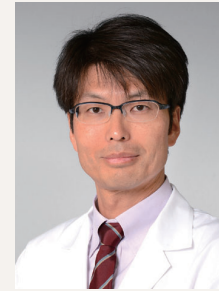
環境保健医学講座  
須賀 万智

当講座が育んできた行政機関、健康増進機関、企業、医師会などのネットワークを活かし、本学が本学を取り巻く社会とつながり、良好な関係を保ち続けるために、その一翼を担うことができる講座となるよう、講座員一同、精進してまいります。

- 略歴：1995(平成7)年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業
- 1997(平成9)年 東京慈恵会医科大学第二内科学教室医員
- 2000(平成12)年 東京慈恵会医科大学大学院医学研究科博士課程修了
- 聖マリアンナ医科大学予防医学教室助手
- 2005(平成17)年 同講師
- 2008(平成20)年 同准教授
- 2010(平成22)年 東京慈恵会医科大学環境保健医学講座准教授
- 2018(平成30)年 同教授
- 2021(令和3)年 同講座担当教授

- 出身地：東京都
- 趣味・特技：オススメがありましたら、ご紹介ください!

2021年4月1日公示



外科学講座  
消化管外科分野  
衛藤 謙

消化管外科、特に下部消化管手術、腹腔鏡手術を専門としています。臨床および基礎研究で世界をリードできるように、人材育成に励み、外科学講座の発展のために全力を尽くしてまいります。何卒、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

- 略歴：平成4年 東京慈恵会医科大学卒業
- 平成6年 東京慈恵会医科大学第三病院外科学教室入局
- 平成10年 癌研究会附属病院国内留学
- 平成11年 東京慈恵会医科大学附属病院外科診療医員
- 平成13年 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校 鏡視下手術センター留学
- 平成15年 東京慈恵会医科大学附属病院外科診療医員
- 平成25年 東京慈恵会医科大学外科講師
- 平成29年 東京慈恵会医科大学附属病院下部消化管外科診療部長
- 平成30年 東京慈恵会医科大学外科准教授
- 令和3年 東京慈恵会医科大学外科学講座消化管外科分野担当教授

- 出身地：東京都
- 趣味・特技：テニス

2021年4月1日公示



小児科学講座  
講座担当教授  
大石 公彦

先天性代謝異常症、遺伝性疾患を中心に小児科領域での診療・研究・教育に携わって参りました。100年に渡って培われてきた講座の伝統を糧に、新しい多様なアイデアを取り入れながら日本の小児医療をリードする人材育成に取り組んでまいります。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

- 略歴：平成6年 東京慈恵会医科大学卒業
- 平成6年 英国セントトーマス病院留学
- 平成8年 東京慈恵会医科大学小児科学講座 助手
- 平成10年 米国マウントサイナイ医科大学小児科・遺伝科 リサーチフェロー
- 平成17年 米国マウントサイナイ医科大学小児科 Assistant Professor
- 平成22年 米国マウントサイナイ医科大学小児科 レジデント
- 平成24年 米国マウントサイナイ医科大学臨床遺伝科 クリニカルフェロー
- 平成26年 米国マウントサイナイ医科大学小児科・臨床遺伝科 指導医
- 平成26年 米国マウントサイナイ医科大学小児科・臨床遺伝科 Assistant Professor
- 平成28年 米国マウントサイナイ医科大学小児科・臨床遺伝科 Residency/Fellowship Associate Program Director
- 平成28年 東京慈恵会医科大学小児科学講座 講師
- 平成31年 米国マウントサイナイ医科大学小児科・臨床遺伝科 Residency/Fellowship Program Director
- 令和3年 東京慈恵会医科大学小児科学講座 講座担当教授

- 出身地：東京都
- 趣味・特技：マラソン・NYヤンキース

2021年8月1日公示



# 附属病院看護師から 看護学科教員 (在宅看護学)になって



医学部看護学科 講師  
兎玉 久仁子

私は、1999年に看護学科を卒業後、附属病院の外科病棟で勤務をしました。その後、家族の転勤に伴って、約10年間は外部の医療機関で働いていました。しかし、学生時代の同窓生との繋がりが続いており、定期的に高木会館や国領校を訪れる機会があり、私にとって慈恵大学や看護学科は、とても大切な存在でした。

その後、2008年に、専門看護師(家族支援分野)を目指して、東海大学健康科学研究科 看護学専攻に入学をしました。その際に、当時看護学科教授の住吉蝶子先生から慈恵看護部が取り組んでいる「FISH!哲学」について学ぶ機会があり、慈恵看護に改めて関心を持ちました。そこで、隣地実習の非常勤講師として附属病院(本院)・第三病院へ入らせて頂きました。実習では、個性豊かな学生さんとの関わりが楽しく充実した時間でした。また、病院では日々のカンファレンスが積極的に行われ、私の専門分野である家族の話題が多く出ていたことを

とても嬉しく感じました。同時に、家族支援専門看護師として、解決すべき課題を感じ、新しい知識を母校である慈恵医大に還元したいという気持ちが強くなり、2010年に附属病院へ再就職をしました。

病院では、看護部に所属し組織横断的に活動させて頂きました。当時は、退院支援に診療報酬が認められ始め、終末期医療やチーム医療に関する議論が活発化しており、患者・家族内の意見の違いや医療者との葛藤など、家族にまつわる倫理的課題も多く発生していました。このような場面では、患者さんが回復するための協力者や資源として家族を捉えるのではなく、生活者としての患者さんや家族全体に目を向けて、皆で希望や目標を見出していくことが重要です。臨床現場で患者さんご家族を含めチーム全体で困難を乗り越えていく時間は、かけがえない経験となりました。次第に、複雑な問題に直面することが多い看護管理者や他分野の認定看護師、専門看護師、医師やMSWなどのコ

メディカルからも相談が増え、教育的な役割も担うようになりました。このような経緯から徐々に基礎教育への関心も高まり2020年10月より医学部看護学科在学看護学講師に着任しました。

看護学科教員になり感じることは、教育現場で求められる個々の学生への対話と主体的な学びは、実際の臨床現場での患者さんご家族への関わりに近いということです。臨床家の実践は、今後も活かしていきたいと思います。また、これまで臨床現場で取り組んできた倫理的課題への取り組みは、教育においても重要な位置付けにあることがわかりました。学術的・理論的な物事を実践例としてわかりやすく解説できることは教育にも役立つと感じます。今後は、教育と臨床との掛橋になりつつ、教員として求められる教育・研究・社会貢献という3つの柱を意識して、組織に貢献できればと思っています。

## The JIKEI News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

2021年1月～2021年6月

3月

### 第96回医学科・第26回看護学科 卒業式挙行される

医学科118名、看護学科60名の門出を祝う。

最後に、慈恵の歌「曙満ち来る」が会場に流れ、卒業生は思い出の歌を静かに聴き入りました。

令和3年3月6日(土)午後1時30分から2号館講堂において、第96回医学科・第26回看護学科卒業式が挙行され、医学科118名、看護学科60名の門出を祝いました。当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ご家族の参列は見合わせて頂き、時間を短縮するなど規模を縮小して実施しました。卒業式の様子はインターネットライブ配信を行いました。

冒頭、卒業生一人ひとりの氏名が読み上げられ、松藤学長より、医学科卒業生を代表して河井基樹さん、看護学科卒業生を代表して浅井美紅さんに卒業証書(学位記)が授与されました。続いて、慈大賞が佐藤紗也子さん(医学科)と田中佑香さん(看護学科)に、同窓会賞が北村晃さん(医学科)と街道侑奈さん(看護学科)に、保護者会賞が藤原悠華子さん(医学科)と平城諒子さん(看護学科)に授与されました。

次いで、松藤学長による式辞と栗原理事長による祝辞をいただき、在校生代表の医学科馬場有夢さん、看護学科平岡新菜さんによる送辞を受け、卒業生代表の医学科佐藤紗也子さん、看護学科田中佑香さんから謝辞が述べられました。最後に、慈恵の歌「曙満ち来る」が会場に流れ、卒業生は思い出の歌を聴き入り、いつも以上に厳かで凛とした空気に包まれて卒業式は閉会しました。





## 令和2年度 退任記念講義・退任教授紹介・記念品贈呈式

3月27日

大学1号館講堂で記念品贈呈式を開催  
退任記念講義はeラーニングを通じて配信

令和2年度をもって定年退任される教授への記念品贈呈式が2021年3月27日(土)に大学1号館講堂にて執り行われました。本来であれば、1月30日(土)に退任記念講義・退任教授紹介および退任記念パーティーが予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となり、3月に記念贈呈式として行われました。

冒頭、松藤学長から退任者各位の永年にわたる大学への貢献に対して感謝の言葉が述べられ、次いで、定年退任となる井田博幸教授(小児科学)・柳澤裕之教授(環境保健医学)・森田紀代造教授(心臓外科学)・吉田和彦教授(外科学)・朝倉正教授(アイトープ実験研究施設)・福島統教授(教育センター)・大橋十也教授(遺伝子治療研究部)・近江禎子教授(麻酔科学)・秋葉直志教授(外科学)・森豊教授(内科学 糖尿病・代謝・内分泌内科)・中村敬教授(精神医学)・貞岡俊一教授(放射線医学)・田崎哲典教授(大学直属輸血・細胞治療部)・武山浩教授(外科学)から大学への感謝の気持ちや思い出を交えた挨拶がありました。その後、学長、同窓会長、教員、学生、講座関係者などから記念品や花束の贈呈が行われ、参加者一同は「曙満ち来る」を静かに聴き入り、厳かなうちに式典は幕を閉じました。

なお、井田博幸教授(小児科学)と柳澤裕之教授(環境保健医学)による退任記念講義は、e-learningを通じて学内に配信されました。



4月1日

## 新入職員就任式

406名の新入職員が、新しい一歩を踏み出す

2021年4月1日(木)午前10時より2号館講堂において新入職員就任式が執り行われました。2021年度については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、会場の分散、時間短縮のうえで挙行されました。式典では栗原敏理事長より告辞を賜り、その内容はテレビ会議システムを用いて各附属病院にも配信されました。当日は天候にも恵まれ、明るく晴れやかな雰囲気の中、厳かに進められ、406名の新入職員が喜びとともに大きな期待と希望を胸に慈恵大学での第一歩を踏み出す門出となりました。



## 宮崎大学との教育連携 (宮崎市立田野病院での地域医療研修)について

4月

研修医からは、「非常に勉強になる、臨床力がついた」などの感想が、  
宮崎で学べることに感謝しております。

2021年度より本院の2年目臨床研修医は原則2か月間の地域医療研修が必修となっております。2020年度までは地域医療研修は1か月であり主に新潟県魚沼地区で実施しておりましたが、研修期間が延びたため新たな研修先が必要となり、今年度より宮崎大学の管理病院である宮崎市立田野病院でも地域医療研修をお願いすることとなりました。本学は2020年3月に宮崎大学と教育、研究に関する包括的連携協定を締結しており、そのご縁で今回の派遣に至っています。今年度は臨床研修医を4月から11月まで4名派遣予定で、地域医療研修では病棟業務の他、一般外来研修も3週間行われます。派遣された研修医からは、「患者と医師の距離が近いと感じる。80代、90代の高齢者も多く、対応が難しい場合もあるが非常に勉強になる。」「外来研修では最終的にかんりの業務を任せてもらえるようになり、非常に臨床力がついた。」との感想が聞かれました。大学病院では学べない非常に多くのことを高木兼寛の出身地、宮崎で学べることに感謝しております。



4月8日

## 令和3年度 医学部入学式

昨年度は執り行えなかった入学式、  
今年度は、感染対策に配慮して行われました。

令和3年4月8日(木)午後2時より西新橋校2号館講堂において医学科・看護学科の入学式が厳粛に執り行われました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度は入学式を執り行うことができませんでしたが、今年度は、参列者を入学生と一部の大学関係者のみに限定させていただき、入場前の検温やマスク着用などの感染防止策を講じた上で行いました。また、入学式の様子は、インターネットにてライブ配信を行いました。

入学生は、医学科生110名、看護学科生60名で、松藤学長より入学許可が宣言されると、続いて医学科入学生代表 河辺萌さん、看護学科入学生代表 茂原美空さんより宣誓の言葉が述べられました。

次いで入学生に対して松藤学長より告辞が、栗原理事長より祝辞が述べられ、松藤学長から医学科入学生代表 森薫子さん、看護学科入学生代表 内山泉さんに保護者会・大学からの記念品が贈呈されました。また、今年度より心温まる祝電が披露されました。終わりに、慈恵の歌「曙満ち来る」が流れる中、晴れやかな空気に包まれ式は閉会となりました。





4月9日

## 令和2年度入学生のための入学式を挙行

昨年度入学した、医学科生109名、看護学科生60名が参加し、マスク越しではありましたが多くの学友と直接会えた喜びを分かち合いました。

昨年4月に予定されていた令和2年度医学科・看護学科入学式は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、やむなく中止となりました。このため新入生には松藤学長および栗原理事長からのお祝いレターと入学許可書が送付され、松藤学長からは新入生に向けたビデオメッセージが遠隔授業のサイトを通じて届けられましたが、学長はじめ教職員には申し訳ない気持ちが残っていました。こうした経緯を踏まえ、1年遅れとなる令和2年度入学生のための入学式が企画され、令和3年4月9日(金)午前10時より、2号館講堂にて挙行されました。出席した学生は皆、活き活きとした表情で、マスク越しではありましたが、多くの学友と直接会えた喜びを分かち合っていました。

開式が宣言されたのち、入学者紹介として、医学科学生109名、看護学科学生60名の氏名が読み上げられました。続いて松藤学長より告示が、栗原理事長より祝辞があり、その中で、昨年度はオンライン授業が中心であったが、適切に自己管理を行い、学習成果を上げたことにねぎらいの言葉があり、改めて歓迎のメッセージを直接贈ることができたことに安堵し、大変嬉しく思うとの所感が述べられました。続いて入学生を代表して医学科の佐藤あずささん、看護学科の佐藤桜花さんから答辞があり、この一年間は大学に通学することもままならず、遠隔授業が開始されたことに不安や焦りを感じることもあったが、今日こうして慈恵の一員としてあらためて迎え入れられたことに対して大変嬉しく思うと同時に、大学に感謝しているとの思いが伝えられました。閉式後も学生たちは親交を深め、一緒に写真撮影する姿は笑顔で満ち溢れていました。生涯忘れることのない、かけがえのない思い出になったことと思います。



### 2021年 主な行事予定表

- 7月18日(日) 看護学科第1回オープンキャンパス(Web個別相談会)
- 8月11日(水) 医学科第1回オープンキャンパス(Web開催)
- 8月12日(木) 医学科第2回オープンキャンパス(Web開催)
- 8月22日(日) 看護学科第2回オープンキャンパス(Web個別相談会)
- 9月16日(木) 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム(Web開催)
- 10月7日(木) 第138回成医会総会
- 10月8日(金) 〃
- 10月28日(木) 第117回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
- 10月31日(日) 看護学科第3回オープンキャンパス(Web個別相談会)
- 11月6日(土) 医学科保護者会秋期総会(詳細未定)
- 11月13日(土) 学祖墓参(詳細未定)

6月

## 新型コロナウイルスワクチン接種事業への協力支援について

学校法人慈恵大学 常務理事  
慈恵大学病院 副院長  
山本 裕康

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がパンデミックとなり一年半が経過しました。本学4附属病院では、重症者を含め1,500名以上の入院患者の治療に全力であたってきましたが、東京五輪開幕直前には第5波に見舞われており、一刻も早い終息が切望されます。これまで、マスクと手洗い・3蜜回避・人流の抑制以外に有効な対策がありませんでしたが、ワクチン開発が急速に進み、わが国でも今年3月から開始された医療従事者への先行接種に引き続いて、高齢者・基礎疾患を有する方・一般住民へとその対象が拡大されています。

現在、全国各地で大規模ワクチン接種事業が行われていますが、膨大な医療スタッフの人員確保が必須であり、慈恵大学病院に対しても多くの協力要請がありました。感染終息への鍵を握るワクチン接種を推進する事は、特定機能病院としての役割とCOVID-19診療を担うことと同様に重要と考え、自治体等公的機関が主催する事業(表1参照)に対して本学から医療スタッフを派遣する事としました。また、本学と連携する医療機関・企業等で行われている職域接種については、緊急時対応を救急部にお引受け頂きました。これらのワクチン接種事業に対して、多大なる貢献をして下さった本学教職員の皆様に深謝申し上げます。

皆さん、あと一息です。"The night is long that never finds the day." 健康に留意し一致団結して頑張りましょう。



表1

主催	対象	期間	医師数	看護師数
魚沼市/同医師会	魚沼市民	6/6~9/26 毎日曜日:延べ17日	1名/日	
みなと保健所	港区内:保育園、幼稚園、小・中学校等職員	7/5~8/24 平日:延べ20日	1名/日	
東京都福祉保健局	都民 (代々木公園ワクチン接種センターなど)	7/1~8/31 毎日:延べ62日	平日4名/日 休日3名/日	1~4名/日
読売巨人軍・読売新聞	文京・新宿・港区民	8/16~11/22 毎日:延べ34日	2名/日	



## Notice

2020年11月から2021年6月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

## 大学公報

## 行事

- 2020年度第2回博士(医学)学位授与式が1月25日(月)午後2時30分より、大学1号館講堂において挙

授与された者	大学院修了者	9名
	論文提出者	16名
	計	25名

- 第96回医学科卒業式・第26回看護学科の卒業式が次の通り挙

2021年3月6日(土)	医学科卒業生	118名
	看護学科卒業生	60名

- 東日本大震災十周年追悼式の当日における甲意が2020年3月11日(水)甲旗を掲揚し、午後2時46分を期して黙とう1分間を実施した。

- 2020年度慈恵第三看護専門学校並びに慈恵柏看護専門学校合同卒業式が次の通り挙

2021年3月12日(金)	慈恵第三看護専門学校	50名
	慈恵柏看護専門学校	68名

- 第11回大学院医学研究科看護学専攻博士前期課程修了式が次の通り挙

2021年3月23日(火)	5名
---------------	----

- 2021年度慈恵第三看護専門学校並びに慈恵柏看護専門学校合同入学式が次の通り挙

2021年4月6日(火)	慈恵第三看護専門学校	54名
	慈恵柏看護専門学校	82名

- 2021年度医学部医学科・看護学科の入学式が次の通り挙

2021年4月8日(木)午後2時より2号館講堂	医学科	110名
	看護学科	60名

- 7月22日(木)から7月25日(日)は、休診とする。なお、8月9日(月)(山の日振替休日)は、通常診療日となる。

- 第59回実験動物慰霊祭が6月19日(土)午後3時より、大学1号館講堂(3階)にて執

- 2021年度第1回博士(医学)学位授与式が6月28日(月)午後2時30分より、大学1号館講堂において挙

授与された者	大学院修了者	16名
	論文提出者	10名
	計	26名

## 公示

- 2020年11月1日  
三浦 靖彦特任准教授に、教授を命ずる  
鈴木 英明講師に、准教授を命ずる  
秋山 政晴講師に、准教授を命ずる  
竹田 宏講師に、准教授を命ずる

- 2020年12月1日  
小林 博司准教授に、教授を命ずる  
箕輪 はるか講師に、准教授を命ずる

## Notice

## 大学公報

## 公示

- 2020年12月22日

矢口 久美子看護補助員(附属柏病院看護部)は、医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣より表彰された。

- 2021年1月1日

長谷川 謙特任教授に、教授を命ずる  
窪田 誠准教授に、教授を命ずる  
中山 恭秀理学療法士に、准教授を命ずる  
太田 史一講師に、准教授を命ずる

- 2021年1月28日

井田 博幸教授に、附属病院院長を命ずる<sup>(※)</sup>  
吉田 和彦教授に、葛飾医療センター院長を命ずる<sup>(※)</sup>  
秋葉 直志教授に、附属柏病院院長を命ずる<sup>(※)</sup>  
古田 希教授に、附属第三病院院長を命ずる<sup>(※)</sup>  
伊藤 洋氏に、参与を命ずる<sup>(※)</sup>  
中村 敬氏に、参与を命ずる<sup>(※)</sup>

- 2021年2月1日

石川 太郎講師に、准教授を命ずる  
越智 小枝講師に、准教授を命ずる

- 2021年2月25日

玉上 淳子看護部長に、附属病院副院長を命ずる<sup>(※)</sup>  
小川 匡市准教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる<sup>(※)</sup>  
小澤 かおり看護部長に、附属第三病院副院長を命ずる<sup>(※)</sup>  
郡司 久人教授に、附属柏病院副院長を命ずる<sup>(※)</sup>

- 2021年3月31日

井田 博幸教授は、定年により職を解く  
柳澤 裕之教授は、定年により職を解く  
森田 紀代造教授は、定年により職を解く  
吉田 和彦教授は、定年により職を解く  
朝倉 正教授は、定年により職を解く  
福島 統教授は、定年により職を解く  
大橋 十也教授は、定年により職を解く

近江 禎子教授は、定年により職を解く  
秋葉 直志教授は、定年により職を解く  
森 豊教授は、定年により職を解く  
中村 敬教授は、定年により職を解く  
貞岡 俊一教授は、定年により職を解く  
田崎 哲典教授は、定年により職を解く  
武山 浩教授は、定年により職を解く  
井上 徹課長は、定年により職を解く  
小松 一祐事務長は、定年により職を解く  
池田 勇一技師長は、定年により職を解く  
五味 美春部長は、定年により職を解く  
加藤 由美子師長は、定年により職を解く  
菅原 直子師長は、定年により職を解く  
有賀 庸代主事は、定年により職を解く

- 2021年4月1日

大学 外科学講座(消化器外科)は、外科学講座(消化管外科)及び外科学講座(肝胆膵外科)に改組する

附属第三病院 第三病院建築準備室(仮称)は、第三病院建築準備室とする

古田 希氏に、学校法人慈恵大学理事を命ずる  
古田 希氏に、学校法人慈恵大学評議員を命ずる

橋本 和弘教授に、副学長を命ずる  
柳澤 裕之教授に、副学長を命ずる  
大橋 十也教授に、副学長を命ずる  
岡野 ジェイムス洋尚教授に、総合医科学研究センター長を命ずる

中村 真理子教授に、教育センター長を命ずる  
東條 克能氏に、客員教授を委嘱する  
石川 義弘氏に、客員教授を委嘱する

金崎 章氏に、客員教授を委嘱する  
児島 章氏に、客員教授を委嘱する  
下田 将之氏に、病理学講座担当教授を命ずる  
須賀 万智教授に、環境保健医学講座担当教授を命ずる

衛藤 謙准教授に、外科学(消化管外科分野)講座担当教授を命ずる

大橋 十也氏に、特命教授を命ずる

(※)印は2021年4月1日就任



## 大学公報

## 公示

柳澤 裕之氏に、特命教授を命ずる

福島 統氏に、特命教授を命ずる

井田 博幸氏に、特命教授を命ずる

吉田 和彦氏に、特命教授を命ずる

秋葉 直志氏に、特命教授を命ずる

武山 浩氏に、臨床専任教授を命ずる  
(任命期間 2021年4月1日～2024年3月31日)田崎 哲典氏に、臨床専任教授を命ずる  
(任命期間 2021年4月1日～2024年3月31日)

久保 健一郎氏に、教授を命ずる

草刈 洋一郎准教授に、教授を命ずる

齋藤 健准教授に、教授を命ずる

延山 嘉真准教授に、教授を命ずる

鹿瀬 陽一准教授に、教授を命ずる

中野 敦氏に、教授を命ずる  
(特任期間 2021年4月1日～2024年3月31日)高木 正道特任准教授に、教授を命ずる  
(特任期間 2021年4月1日～2024年3月31日)吉川 晃司准教授に、教授を命ずる  
(特任期間 2021年4月1日～2024年3月31日)中澤 靖准教授に、教授を命ずる  
(特任期間 2021年4月1日～2024年3月31日)

大橋 十也教授に、看護学科教授(兼任)を命ずる

永吉 美智枝講師に、看護学科准教授を命ずる

佐藤 紀子看護学科教授に、大学院医学研究科  
看護学専攻長を命ずる矢野 文章氏に、附属病院上部消化管外科診療  
部長を命ずる野木 裕子氏に、附属病院乳腺・甲状腺・内分泌  
外科診療部長を命ずる関 好孝氏に、葛飾医療センター呼吸器内科診療  
部長を命ずる藤本 啓氏に、附属第三病院糖尿病・代謝・内分  
泌内科診療部長を命ずる布村 明彦氏に、附属第三病院精神神経科診療  
部長を命ずる茂木 雅臣氏に、附属第三病院耳鼻咽喉・頭頸  
部外科診療部長を命ずる安藤 精貴氏に、附属柏病院糖尿病・代謝・内分  
泌内科診療部長を命ずる戸谷 直樹氏に、附属柏病院外科診療部長を命  
ずる井田 博幸氏に、附属病院輸血・細胞治療部診  
療部長代行を命ずる下村 達也氏に、附属第三病院泌尿器科診療部  
長代行を命ずる尾尻 博也氏に、附属柏病院放射線部診療部長  
(兼任)を命ずる

朝倉 正氏に、客員教授を委嘱する

森田 紀代造氏に、客員教授を委嘱する

森 豊氏に、客員教授を委嘱する

近江 禎子氏に、客員教授を委嘱する

貞岡 俊一氏に、客員教授を委嘱する

石地 尚興氏に、客員教授を委嘱する

鬼頭 伸輔氏に、連携大学院教授を命ずる

栗山 健一氏に、連携大学院教授を命ずる

水野 勝広氏に、連携大学院教授を命ずる

岩崎 真樹氏に、連携大学院教授を命ずる

高橋 祐二氏に、連携大学院教授を命ずる

野田 隆政氏に、連携大学院准教授を命ずる

菊地 譲に、10等級・部長を命ずる

関根 智之に、8等級・主事を命ずる

安部 一之に、8等級・課長を命ずる

新保 繁に、8等級・課長を命ずる

加塩 大吾に、8等級・課長補佐を命ずる

相曾 好司郎に、10等級・部長を命ずる

平川 英滋に、9等級・技師長を命ずる

金子 文成に、8等級・課長を命ずる

河合 昭人に、8等級・技師長補佐を命ずる

田村 卓に、8等級・技師長補佐を命ずる

渡邊 尚に、8等級・技士長補佐を命ずる

玉上 淳子に、10等級・部長を命ずる

林 由美に、9等級・部長を命ずる

狩野 毅に、9等級・次長を命ずる

倉本 武晴に、8等級・主事を命ずる

小澤 かおりに、10等級・部長を命ずる

島崎 博士に、8等級・課長補佐を命ずる

高田 浩志に、8等級・主事を命ずる

岡村 秀樹に、8等級・事務長を命ずる

## 大学公報

## 公示

蔭山 博之に、8等級・課長補佐を命ずる

小池 俊子に、8等級・主事を命ずる

岩谷 理恵子に、8等級・技士長補佐を命ずる

## ● 2021年6月1日

山内 貴史講師に、准教授を命ずる

下村 達也講師に、准教授を命ずる

玉上 淳子氏に、看護学科臨床教授を命ずる

小澤 かおり氏に、看護学科臨床教授を命ずる

## 学事

## ● 大学院修了者

2020.11.25 三輪 沙織

2020.12.9 井上 隆志 互 健二

2020.12.23 坊野 恵子

2021.1.13 和田 美穂 栗田 裕輔

2021.1.27 桑田 剛 久保 優子

2021.2.10 吉年 俊文

2021.2.24 竹田 裕介 田中 祥朗 西島 義道  
大藤 洋介2021.3.10 白石 めぐみ 阿久津 泰伴 河内 文江  
村山 慎一 杉山 佳史 杉本 真理子

2021.3.24 千原 真未 張 萌琳 保坂 悠介

水野 孝昭 今成 英司 務臺 理恵子  
伏見 淳 渡辺 翔 児玉 早藤本 俊成 平松 友雅  
2021.04.14 門田 宰 荒川 翔太郎

## ● 学位論文通過者

2020.11.11 月永 真太郎 成廣 哲史 萩原 雅子

2020.11.25 井上 桃子

2020.12.9 山田 崇之 飯島 正紀

2020.12.23 大木 理次 和久井 大

2021.1.13 宮 美智子 石川 尊士

2021.1.27 都筑 俊介 露無 松里 森下 将充  
姜 鍊偲

2021.2.10 岡部 究 石井 洵平 山田 真紗美

2021.2.24 渡邊 侑衣

2021.3.10 堀向 健太 浅利 佳奈

2021.3.24 三浦 正寛 窪田 匡臣

2021.4.14 柳澤 孝文 遠藤 朝則 羽山 哲生  
大木 一剛 吉嶺 松洋

2021.4.28 丸山 史晃 星野 優

## 訃報

- ▶ 山本 健斗事務員(葛飾医療センター)は、1月8日逝去されました。
- ▶ 永野 允名誉教授(旧青戸病院内科学講座)は、1月14日逝去されました。
- ▶ 小田嶋 梧郎岡山大学名誉教授(昭和26年 本学卒)は、1月15日逝去されました。
- ▶ 有我 勇人事務員(葛飾医療センター)は、1月17日逝去されました。
- ▶ 同窓会岡山支部・学術連絡委員 杉山 守先生(昭和50年卒)は、3月17日逝去されました。
- ▶ 同窓会茨城支部長 原田 真人先生(昭和42年卒)は、4月5日逝去されました。
- ▶ 山田 尚元教授(基盤研究施設)は、4月17日逝去されました。

## 大学公報

## 東京慈恵会公報

## ●教職員人事

2021年4月1日 新任 3等級・看護教員 初原 由美子

## ●行 事

2020年11月20日(金) 公益社団法人 東京慈恵会 理事会を书面会議にて開催した。

2020年11月28日(土) 慈恵看護専門学校戴帽式が挙行された。1年生(71期生) 94名

2021年3月12日(金) 慈恵看護専門学校卒業式が挙行された。卒業生 112名

2021年3月16日(火)に予定していた東京慈恵会理事会、評議員会、総会は新型コロナウイルス感染拡大を受け  
书面会議にて実施した。

2021年4月6日(火) 慈恵看護専門学校入学式が挙行された。入学生 100名

## 補助金・助成金

2020年度  
科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧

1.科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧(2019年度、2020年度) (単位:千円)

研究種目	2019年度			2020年度		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	2	5,500	1,650	2	5,300	1,590
基盤研究(A)	2	11,200	3,360	2	8,500	2,550
基盤研究(B)	12	53,950	15,300	17	65,100	19,530
基盤研究(C)	99	93,100	27,930	93	97,600	29,280
挑戦的研究(萌芽)	5	9,800	2,940	5	8,700	2,610
若手研究(A)	1	4,200	1,260			
若手研究(B)	7	4,150	1,245			
若手研究	49	59,200	17,760	74	90,150	27,045
研究活動スタート支援	4	6,060	1,560	8	7,000	2,100
特別研究員奨励費	1	900	0	2	2,200	330
国際共同研究強化	1	0	0	1	0	0
国際共同研究強化(A)	1	0	0	1	0	0
国際共同研究強化(B)				1	4,300	1,290
奨励研究	1	540	0			
ひらめき☆ときめきサイエンス	1	210	0			
学術変革領域研究(A)				1	13,600	4,080
合計	186	248,810	73,005	207	302,450	90,405

2.科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧(新規採択分+継続分) (単位:千円)

研究種目	2020年度(継続分)			2020年度(新規採択分)		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	2	5,300	1,590			
基盤研究(A)	2	8,500	2,550			
基盤研究(B)	10	36,100	10,830	7	29,000	8,700
基盤研究(C)	62	58,900	17,670	31	38,700	11,610
挑戦的研究(萌芽)	2	2,100	630	3	6,600	1,980
若手研究	41	43,750	13,125	33	46,400	13,920
研究活動スタート支援	1	300	90	7	6,700	2,010
特別研究員奨励費				2	2,200	330
国際共同研究強化	1	0	0			
国際共同研究強化(A)	1	0	0			
国際共同研究強化(B)				1	4,300	1,290
学術変革領域研究(A)				1	13,600	4,080
合計	122	154,950	46,485	85	147,500	43,920



財務報告

2020年度(令和2年度)決算

1.はじめに

2020年度は、既存の債務返済と西新橋キャンパス再整備を含めた設備投資計画に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療収支(医療粗利益)が予算を大幅に下回る厳しい1年となりました。この事態に対応する為に、上期に賞与削減や第三病院建築計画の1年延期等の経費削減対策を行いました。下期に感染対策補助金の交付を受けられたことから、結果的には基本金組入前当年度収支差額(利益)が予算を上回る決算となりました。

2.資金収支計算書

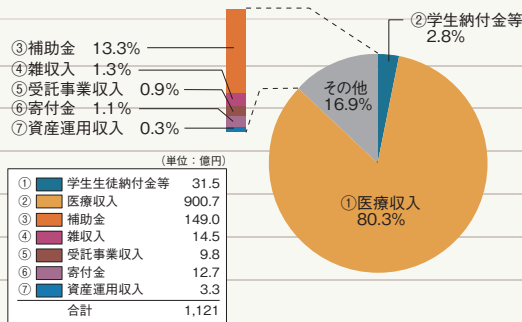
施設関係支出は52億円、設備関係支出は48億円でした。施設関係の主な支出は、1月に稼働した新外来棟の建築資金51億円の支払です。設備関係の主な支出は、医療器械25億円と柏病院電子カルテ更新を

含むシステム投資17億円の支払でした。この結果、次年度繰越支払資金は445億円となり前年度を18億円下回りましたが、有価証券を加えた現金預金有価証券残高は743億円であり、第三病院建築計画の再開に問題ない状況にあります。

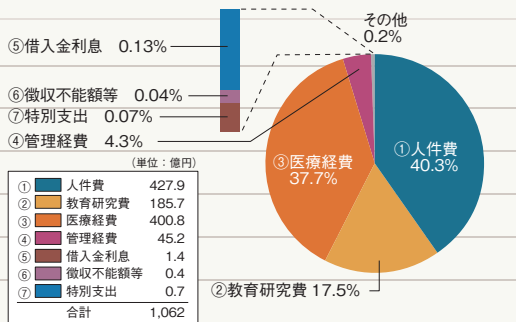
3.事業活動収支計算書

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、医療収入は901億円(予算比▲146億円・同比▲14%)で予算を大きく下回りました。これに対応する為に人件費を含む経費削減対策を実施した結果、支出合計は1,062億円(予算▲65億円・同比▲6%)と予算を下回りました。加えて、感染対策補助金を含む補助金が149億円(予算+109億円)と予算を大幅に上回ったことから、結果的に基本金組入前当年度収支差額(利益)は59億円(予算+33億円)と予算を上回ることができました。

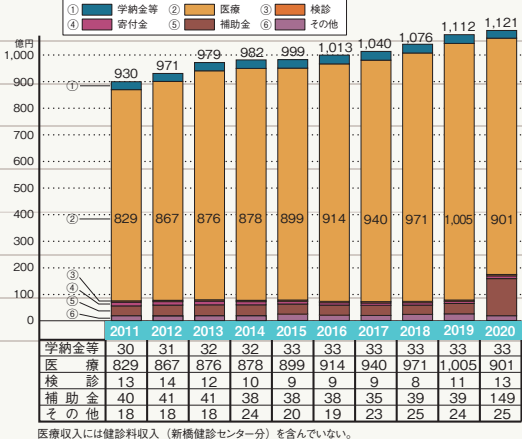
2020年度(令和2年度)事業活動収入の構成



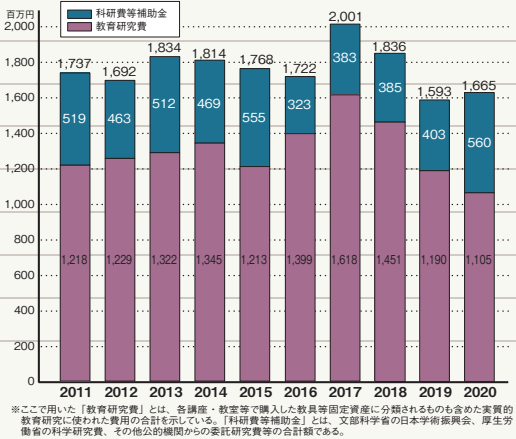
2020年度(令和2年度)事業活動支出の構成



事業活動収入の推移 2011年度(平成23年度)~2020年度(令和2年度)



教育研究費の推移 2011年度(平成23年度)~2020年度(令和2年度)



※ここで用いた「教育研究費」とは、各講座・教室等で購入した教員等固定資産に分類されるものも含めた実質的教育研究に使われた費用の合計を示している。「科研費等補助金」とは、文部科学省の日本学術振興会、厚生労働省の科学研究費、その他の公的機関からの委託研究費等の合計額である。

財務報告

4.貸借対照表

純資産の増加59億円は当年度の利益です。この利益で借入金や長期未払金(リース支払)の外部負債23億円を返済しました。加えて、新外来棟の建築資金51億円を主とする未払金50億円を支払いました。この結果、負債と純資産の合計は▲6億円となりました。資産サイドでは現金預金と有価証券が合計で30億円減少し、この資金で負債サイドの不足を賄うと共に、土地(管理棟の隣地)購入7億円・教育研究機器備品(主に、柏病院電子カルテ更新)9億円、未収入金(主に、感染対策補助金未収分)12億円に充当されました。

5.決算開示方法について

平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

2020年度(令和2年度)事業活動収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
教育活動支出	42,791,383,429	教育活動収入	3,148,526,600
人件費	58,655,018,439	学生生徒納付金	131,099,400
教育研究経費	18,573,537,405	手数料	1,225,573,036
教育研究経費	40,081,481,034	寄付金	1,084,073,036
医療経費	4,518,398,216	經常費等補助金	14,843,701,121
管理経費		事業収入	91,044,053,070
		医療収入	90,066,563,870
		受託事業収入	977,489,200
徴収不能額等	40,287,016	雑収入	1,314,701,591
徴収不能引当金繰入額	40,287,016	徴収不能引当金戻入額	0
教育活動支出計	106,005,087,100	教育活動収入計	111,566,154,818
		教育活動収支差額	5,561,067,718
教育活動外支出		教育活動外収入	
借入金等利息	136,877,108	その他の受取利息・配当金	329,784,843
教育活動外支出計	136,877,108	教育活動外収支差額	192,907,735
		經常収支差額	5,753,975,453
特別支出		特別収入	
資産処分差額	69,688,123	資産売却差額	245,147,559
その他の特別支出	0	その他の特別収入	141,500,000
過年度修正額		施設設備寄付金	44,483,999
		現物寄付	59,163,560
		施設設備補助金	0
		過年度修正額	0
特別支出計	69,688,123	特別収入計	245,147,559
		特別収支差額	175,459,436
基本金組入前当年度収支差額	5,929,434,889	基本金組入額合計	▲13,155,745,437
		当年度収支差額	▲7,226,310,548
		前年度繰越収支差額	▲50,690,271,682
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	▲57,916,582,230
事業活動支出計	106,211,652,331	事業活動収入計	112,141,087,220

令和3年6月文部科学省へ提出 (単位:円)

2020年度(令和2年度)資金収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	42,210,841,461	学生生徒納付金収入	3,148,526,600
教育研究経費支出	50,681,086,484	手数料収入	131,099,400
教育研究経費支出	13,006,935,619	寄付金収入	1,225,573,036
医療経費支出	37,674,150,865	補助金収入	14,902,864,681
管理経費支出	3,670,646,788	国庫補助金	5,241,384,336
		地方公共団体補助金	9,659,180,345
		その他の補助金	2,300,000
		事業収入	91,044,053,070
		医療収入	90,066,563,870
		受託事業収入	977,489,200
		受取利息・配当金収入	329,784,843
借入金等支払利息支出	136,877,108	資産売却収入	0
借入金等返済支出	1,900,570,000	雑収入	1,314,701,591
施設関係支出	5,193,802,446	借入金収入	0
設備関係支出	4,847,852,539	前受金収入	929,598,540
資産運用支出	5,300,350,000	その他の収入	24,496,824,784
その他支出	26,279,508,402	資金収入調整勘定	▲19,449,388,449
資金支出調整勘定	▲20,345,084,366	期末未収入金	▲18,533,414,381
期末未払金	▲20,345,084,366	前期末前受金	▲915,974,068
次年度繰越支払資金	44,525,507,328	前年度繰越支払資金	46,328,320,094
支出の部合計	164,401,958,190	収入の部合計	164,401,958,190

令和3年6月文部科学省へ提出 (単位:円)

2020年度(令和2年度)貸借対照表

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	159,941,018,944	156,088,713,821	3,852,305,123
有形固定資産	128,864,803,836	127,369,411,037	1,495,392,799
土地	7,444,357,987	6,731,341,407	713,016,580
建物	94,550,246,168	94,171,761,812	378,484,356
構築物	319,048,109	359,730,942	▲40,682,833
教育研究用機器備品	21,714,136,231	20,784,917,963	929,218,268
管理用機器備品	1,673,346,374	1,768,734,448	▲95,388,074
図書	2,833,852,599	2,869,956,277	▲36,103,678
車両	14,826,660	0	14,826,660
建設仮勘定	291,827,800	659,806,280	▲367,978,480
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給付引当資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
その他の固定資産	29,476,215,108	27,119,302,784	2,356,912,324
施設利用権	403,610,522	427,580,012	▲23,969,490
有価証券	28,542,827,220	25,942,477,220	2,600,350,000
長期貸付金	372,295,043	339,392,241	32,902,802
ソフトウェア	157,482,323	409,853,311	▲252,370,988
流動資産	65,401,612,884	69,860,141,228	▲4,458,528,344
現金預金	44,525,507,328	46,328,320,094	▲1,802,812,766
未収入金	18,378,008,874	17,168,093,064	1,209,915,810
貯蔵品	1,122,092,635	1,170,346,968	▲48,254,333
有価証券	1,200,000,000	5,000,000,000	▲3,800,000,000
仮払金	176,004,047	193,381,102	▲17,377,055
資産の部合計	225,342,631,828	225,948,855,049	▲606,223,221
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	40,107,613,426	41,653,459,064	▲1,545,845,638
長期借入金	17,924,830,000	19,703,400,000	▲1,778,570,000
長期未払金	1,735,076,683	2,082,894,289	▲347,817,606
退職給付引当金	20,447,706,743	19,867,164,775	580,541,968
流動負債	23,559,333,952	28,549,146,424	▲4,989,812,472
短期借入金	1,778,570,000	1,900,570,000	▲122,000,000
未払金	20,332,270,125	25,300,174,329	▲4,967,904,204
前受金	929,598,540	915,974,068	13,624,472
預り金	517,630,287	430,938,027	86,692,260
保証金	1,265,000	1,490,000	▲225,000
負債の部合計	63,666,947,378	70,202,605,488	▲6,535,658,110
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	219,592,266,680	206,436,521,243	13,155,745,437
第1号基本金	211,433,076,657	198,582,448,376	12,850,628,281
第4号基本金	8,159,190,023	7,854,072,867	305,117,156
翌年度繰越収支差額	▲57,916,582,230	▲50,690,271,682	▲7,226,310,548
繰越収支差額	57,916,582,230	50,690,271,682	7,226,310,548
純資産の部合計	161,675,684,450	155,746,249,561	5,929,434,889
負債及び純資産の部合計	225,342,631,828	225,948,855,049	▲606,223,221

令和3年6月文部科学省へ提出 (単位:円)

財務報告

2021年度(令和3年度)予算

1. 予算編成方針

2021年度の予算編成方針は、新型コロナウイルスの感染状況を勘案の上以下としました。

(1) 既存の債務返済と、2021年度に再開される第三病院建築計画を含めた設備投資計画を、遅滞なく遂行し、かつ黒字を計上できる予算とする。(新型コロナウイルス感染症による医療収入の悪化を見込み、2020年度の早い段階で第三病院建築計画の1年間凍結を決定していました。)

(2) 3億円以上の当年度収支差額(利益)を計上できる予算編成を目指す。

本予算編成方針作成当時、2020年度決算はコロナ禍による大幅な赤字が見込まれており、2年連続の赤字決算は今後の投資計画(第三病院建替・国領校建替・大学本館建築・E棟建替)に悪影響を及ぼす可能性が高いと考え、2021年度は何としても黒字決算を実現する方針としました。

この為に、医療収入については、新型コロナウイルス感染症の影響で先行き不透明な状況にある中、2020年度予算の95%以上を目標に予算編成を行っていたくよう各病院にお願いしました。また、経費については、2020年度予算比ゼロシーリングを原則として予算編成に臨みました。

2. 2021年度予算概要

(1) 事業活動収支計算書(損益計算書、文中の前年度見込とは予算策定時の2021年1月時点見込のこと)

収入合計は1,107億円(前年度見込比+17億円/同比+2%)、支出合計は1,101億円(前年度見込比+40億円/同比+4%)、基本金組入前当年度収支差額

は6億円(前年度見込比▲23億円/同比▲80%)となり、予算編成方針の当年度収支差額目標3億円を若干上回る予算を編成することができた。

良好な予算を編成できた要因は、医療収入で2019年度実績並みの予算を組めたこと。新型コロナウイルス感染症の先行きは不透明な状況にあるが、2020年度に経験を積んだコロナ禍での診療対応を踏まえ、医療収入1,005億円(前年度見込比+103億円/同比+11%)の良好な予算となった。

一方で、医療以外のその他収支は、前年度見込比▲104億円の大幅減収となる。要因は、感染対策補助金見込比減少▲82億円を主要因とする収入の減少▲86億円と、人件費+3億円・委託費+8億円・諸経費+3億円・減価償却費+3億円を主要因とする経費の増加+18億円である。

(2) 活動区分資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)

i) 施設・整備関係支出  
施設・整備関係支出金額は合計で63億円。2020年度予算119億円比▲56億円の減少。主な要因は、西新橋キャンパス再整備が2020年度に完了したことと、電子カルテの更新が予定されていない為である。

ii) 資金繰り

2021年度は施設整備活動の投資が前年度比減少するが、感染対策補助金も大きく減少することから、2021年度末の現金・預金残高は前年度末比8億円増加の462億円に留まる見込である。しかし乍ら、有価証券残高は今年度末と同額の280億円程度が見込まれる為、現金・預金・有価証券残高の合計は742億円となり、第三病院建替計画を再開するにあたり資金繰りの懸念はない。

財務報告

2021年度(令和3年度)資金収支予算書 (単位:千円)

自 2021年4月1日  
至 2022年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	2020年度(R2)	2021年度(R3)	対前年比較	科目	2020年度(R2)	2021年度(R3)	対前年比較
人件費支出	43,649,621	42,223,072	▲1,426,549	学生生徒納付金収入	3,129,690	3,108,750	▲20,940
教育研究経費支出	55,711,188	54,146,826	▲1,564,362	手数料収入	148,607	147,489	▲1,118
教育研究費支出	14,442,059	14,289,764	▲152,295	寄付金収入	1,005,200	985,629	▲19,571
医療経費支出	41,269,129	39,857,062	▲1,412,067	補助金収入	3,967,956	3,729,691	▲238,265
管理経費支出	4,126,067	4,168,803	42,736	国庫補助金	3,642,932	3,486,723	▲156,209
				地方公共団体補助金	321,624	239,168	▲82,456
				その他の補助金	3,400	3,800	400
				事業収入	105,551,537	101,312,960	▲4,238,577
				医療収入	104,686,938	100,454,201	▲4,232,737
借入金等支払利息支出	128,907	114,337	▲14,570	受託事業収入	864,599	858,759	▲5,840
				受取利息・配当金収入	272,676	307,830	35,154
借入金等返済支出	1,905,370	1,778,570	▲126,800	雑収入	1,266,733	1,136,405	▲130,328
施設関係支出	5,347,860	2,375,611	▲2,972,249	借入金等収入	0	0	0
設備関係支出	6,535,663	3,942,958	▲2,592,705	前受金収入	915,974	929,599	13,625
資産運用支出	5,500,000	1,390,000	▲4,110,000	その他の収入	23,114,916	20,451,966	▲2,662,950
その他支出	25,810,993	20,958,100	▲4,852,893				
【予備費】	700,000	700,000	0	資金収入調整勘定	▲17,258,639	▲17,670,849	▲412,210
資金支出調整勘定				期末未収入金	▲16,342,665	▲16,741,250	▲398,585
期末未払金	▲20,485,142	▲18,194,034	2,291,108	前期末前受金	▲915,974	▲929,599	▲13,625
次年度繰越支払資金	39,596,965	46,231,700	6,634,735	前年度繰越支払資金	46,412,842	45,396,473	▲1,016,369
支出の部合計	168,527,492	159,835,943	▲8,691,549	収入の部合計	168,527,492	159,835,943	▲8,691,549

2021年度(令和3年度)事業活動収支予算書 (単位:千円)

自 2021年4月1日  
至 2022年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	2020年度(R2)	2021年度(R3)	対前年比較	科目	2020年度(R2)	2021年度(R3)	対前年比較
教育活動支出				教育活動収入			
人件費	43,911,404	42,601,861	▲1,309,543	学生生徒納付金	3,129,690	3,108,750	▲20,940
教育研究経費	63,682,809	62,329,344	▲1,353,465	手数料	148,607	147,489	▲1,118
教育研究費	19,986,097	20,059,306	73,209	寄付金	876,098	861,679	▲14,419
医療経費	43,696,712	42,270,038	▲1,426,674	経常費等補助金	3,808,101	3,683,093	▲125,008
管理経費	4,923,361	5,053,607	130,246	付随事業収入	105,551,537	101,312,960	▲4,238,577
				医療収入	104,686,938	100,454,201	▲4,232,737
徴収不能額等	36,500	35,000	▲1,500	受託事業収入	864,599	858,759	▲5,840
教育活動支出計	112,554,074	110,019,812	▲2,534,262	雑収入	1,266,733	1,136,405	▲130,328
				教育活動収入計	114,780,766	110,250,376	▲4,530,390
教育活動外支出				教育活動収支差額	2,226,692	230,564	▲1,996,128
借入金等利息	128,907	114,337	▲14,570				
教育活動外支出計	128,907	114,337	▲14,570	教育活動外収入			
教育活動外収支差額	143,769	193,493	49,724	その他の受取利息・配当金	272,676	307,830	35,154
				教育活動外収入計	272,676	307,830	35,154
				教育活動外収支差額	143,769	193,493	49,724
				経常収支差額	2,370,461	424,057	▲1,946,404
特別支出	0	0	0	特別収入			
資産処分差額	0	0	0	資産売却差額	0	0	0
その他の特別支出				その他の特別収入	288,957	170,548	▲118,409
				施設設備寄付金	129,102	123,950	▲5,152
特別支出計	0	0	0	施設設備補助金	159,855	46,598	▲113,257
				特別収入計	288,957	170,548	▲118,409
				特別収支差額	288,957	170,548	▲118,409
基本金組入前当年度収支差額	2,659,418	594,605	▲2,064,813	基本金組入額合計	▲6,126,973	270,317	6,397,290
				当年度収支差額	▲3,467,555	864,922	4,332,477
				前年度繰越収支差額	▲37,883,494	▲50,690,272	▲12,806,778
				基本金取崩額	0	0	0
				翌年度繰越収支差額	▲41,351,049	▲49,825,350	▲8,474,301
事業活動支出計	112,682,981	110,134,149	▲2,548,832	事業活動収入計	115,342,399	110,728,754	▲4,613,645



生涯学習・公開セミナー等

慈恵医大生涯学習センター	附属病院(本院)	慈恵医師会
<p><b>慈恵医大 生涯学習セミナー</b> 月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。</p> <p><b>月例セミナー</b> ●開催日時 第2土曜日(4月・6月・11月) 16:00~18:00 ●場所 附属病院(本院) 中央棟3階会議室</p> <p><b>第257回</b> 月日・時間 2021年4月10日(土) 16:00~17:00 テーマ 乳腺・甲状腺疾患の診断と治療 演者 乳腺・内分泌外科 田部井 功 准教授</p> <p>月日・時間 2021年4月10日(土) 17:00~18:00 テーマ 救急室で亡くなった症例を通して内分泌疾患を考える 演者 糖尿病・代謝・内分泌内科 山城 健二 講師</p> <p><b>第258回</b> 月日・時間 2021年6月12日(土) 16:00~17:00 テーマ 睡眠薬との上手な付き合い方 演者 精神神経科 山寺 亘 准教授</p> <p>月日・時間 2021年6月12日(土) 17:00~18:00 テーマ 三叉神経痛 演者 脳神経外科 渡邊 健太郎 助教</p> <p><b>第259回</b> 月日・時間 2021年11月13日(土) 16:00~17:00 テーマ バイオフィルムの基礎研究と応用展開 演者 細菌学講座 杉本 真也 准教授</p> <p>月日・時間 2021年11月13日(土) 17:00~18:00 テーマ 消化器内視鏡領域におけるAI技術の活用 演者 内視鏡部 権 俊介 助教</p> <p style="font-size: small;">注)一部変更することもあります。</p> <p><b>第41回慈恵医大夏季セミナー</b> 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラムは2021年9月16日(木)Webで開催いたします。</p> <p>お問合せ先:生涯学習センター TEL: 03-3433-1111(大代表)内線2634</p>	<p><b>2021年度 みんなの健康教室 知っておきたいがんのこと ~治療と予防のための自助努力~</b> (共催: NHK 放送博物館・東京慈恵会医科大学) ●開催時間 14:00~15:15(開場13:30) ●場所 NHK放送博物館 愛宕山8Kシアター</p> <p><b>第3回</b> 月日 2021年9月11日(土) テーマ 進行肺がんの基本 ~予防・診断と治療・治癒の可能性~ 演者 呼吸器内科 和久井 大 先生(講師/診療医長)</p> <p>テーマ 肺がんと生活 ~最期は誰とどこで迎えますか?~ 演者 患者支援・医療連携センター 在宅療養支援室 伊藤 位江 看護師</p> <p><b>第4回</b> 月日 2021年11月20日(土) テーマ 食道癌・胃癌・大腸癌:早期発見のすすめ 下部消化管外科 衛藤 謙 先生(教授/診療部長)</p> <p>テーマ 知ってほしいアピアランスケア ~治療で外見が変化しても自分らしく~ 演者 看護部 紙屋 友紀 看護師</p> <p><b>第5回</b> 月日 2022年1月22日(土) テーマ 前立腺癌について 演者 泌尿器科 田代 康次郎 先生(助教/診療医員)</p> <p>テーマ くらしががん予防 演者 看護部 藤本 麗子 看護師長</p> <p><b>第6回</b> 月日 2022年3月12日(土) テーマ がん治療と仕事の両立 ~若年世代からシニアまで~ 演者 港区立がん在宅ケア支援センター ういケアみなと 高橋 都 先生(アドバイザー・内科医師/慈恵大学客員教授)</p> <p>テーマ 病院での就労支援について 演者 患者支援・医療連携センター ソーシャルワーカー室 木村 さとみ</p> <p>お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室 TEL:03-5400-1202(直通)</p>	<p><b>慈恵医師会産業医研修会</b> 2022年2月に開催を予定しています。 (主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会</p> <p>お問合せ先:慈恵医師会 TEL: 03-3433-1111(大代表)内線2636</p> <p style="background-color: #f4a460; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>看護学科</b></p> <p><b>地域連携看護学実践研究センター (JANPセンター)主催 市民公開講座</b> ●2021年7月以降に市民公開講座(動画)を配信します。秋には、動画の内容を冊子にまとめて発行する予定です。 詳細はHPに掲載しております。</p> <p>テーマ 「身体のストレッチ・心のストレッチ」</p> <p style="text-align: center;">JANPセンターHP ▶ </p> <p>お問合せ先:看護学科 学事課 TEL: 03-3430-8686(自動ボレーター)内線2770 E-mail janp@jikei.ac.jp</p>



←最新情報はこちら

寄付のお願い

ご寄付の御礼とお願い

平素より本学に対してご支援、ご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

昨年2月に新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れて以来、本学は臨床、教育、研究のすべての機能が困難な状況に直面しましたが、皆様の様ざまなご支援とご協力によって、難局を切り抜けることができました。改めて皆様のご芳志に対して御礼申し上げます。

さて、昨年1月に本院の新外来棟は稼働し、西新橋

キャンパス再整備計画は一区切りいたしました。現在、老朽化が激しい第三病院の建て替えと、学生教育の改善・充実を図るために国領キャンパス再整備計画の検討を始めております。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となります。加えて、教育と研究にも資金が必要です。大学は、今後も今まで以上に自助努力を重ねて参りますが、資金の調達には限度があります。引き続き関係各位のご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

【お知らせ】

一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナーズボードに掲載させていただきます。また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱いとなります。

寄付者名簿

・2020年11月1日~2021年5月31日の寄付者

● <b>企業等</b>	森本 志保	福田 英嗣	齋藤 秀子
狛江市立	安田 榮一	松崎 健一郎	酒井 和子
狛江第三中学校	安田 武史	山村 俊典	竹野 恒治
校長 工藤聡	山田 統正	● <b>保護者会</b>	立川 誠二
Yahoo! 基金	横井 清	東京慈恵会医科大学	永坂 恵子
		保護者会	中島 覚久
● <b>同窓生</b>	● <b>同窓会支部会・クラス会</b>	● <b>一般個人</b>	橋本 雅永子
安澤 龍宏	昭和36年卒一同	新井 佐和子	葉田 順治
医療法人社団 恵芳会	● <b>父兄</b>	石野 悟司	八田 裕子
理事長 松脇由典	医療法人	伊藤 博	林 則隆
石地 辰興	川崎すずき内科クリニック	伊藤 文子	広瀬 武意
宇都宮 光明	理事長 鈴木竜司	江波 戸清巳	間瀬 フミ
尾泉 博	有田 誠司	大垣 英人	町田 幸三
大山 亘	石川 賢人	猪狩 稔	三笠 俊一
川村 愛子	大友 教暁	垣内 伯之	宮下 仁志
後藤 健吉	北村 伸子	堅山 壽子	湯浅 起市郎
佐久間 龍良	小関 誠一郎	川上 耕	伊藤 博
奈良 隆寛	坂井 幸治	齋藤 糸子	
林 徳佐	日置 清巳		
村岡 伸一			

## ガバナンス

## 学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

## 学校法人 慈恵大学 行動規範

## (目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

## (基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

## (法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

## (人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いじめや差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

## (取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

## (反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

## (過剰な接待・報告の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受け取りを禁止する。

## (環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

## (公私の区別)

第9条 公私の区別をわきま、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

## (日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。

## (虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

## (教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

## (告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

## (監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

## (違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

## 附 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

## 医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。  
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



## 附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18  
TEL 03-3433-1111(代表) 内線5099  
FAX 03-5401-1879(直通)



## 葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2  
TEL 03-3603-2111(代表)内線5145  
FAX 03-3690-7474(直通)

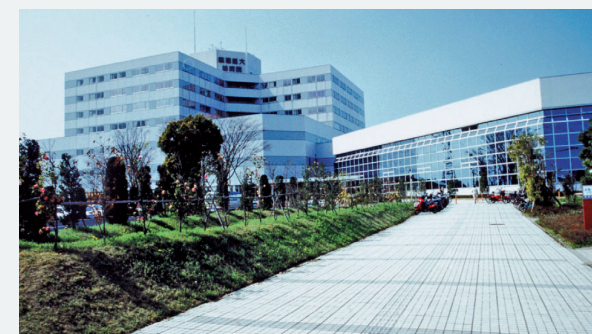


## 第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都柏江市和泉本町4-11-1  
TEL 03-3480-1151(代表)内線3804、3830  
FAX 03-3430-3611(直通)



## 柏病院

患者支援センター 医療連携室



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1  
TEL 04-7164-1111(代表)内線2158  
FAX 04-7164-1197(直通)



## [表紙の人]



## 横尾 隆

Takashi Yokoo

東京慈恵会医科大学 内科学(腎臓・高血圧内科)講座担当教授  
東京慈恵会医科大学附属病院 診療部長  
医学博士 取得

## 内科医として 生きる私にとって、 患者さんは「道しるべ」

私は、研究においても患者さんに直接役に立つ領域に取り組みたいと考えてきました。研究医が担うのは人体の謎を解き明かす「科学」の領域です。私には、研究医として権威ある学術誌に論文が載ることより、治療法を確立して、1日でも早く患者さんに届けることの方が重要だった。それはこの20年間、ずっと変わりませんね。

詳しくは、慈恵大学病院の医療を牽引する医師たちの、これまでの軌跡をたどる「リーダーズ・ジャーナル」をご覧ください。



<https://www.hosp.jikei.ac.jp/jikei/media/312.html>

日本内科学会 財務・組織管理委員会委員  
日本腎臓学会 理事/学術委員会委員長/表彰選考部会長/  
学術研究会企画戦略委員会委員/編集委員会委員/国際委員会委員/  
腎臓病/バイオバンク構築委員会委員/腎臓病データベース小委員会委員  
日本高血圧学会 評議員/国内交流委員会委員  
日本再生医療学会 代議員  
日本ヒト細胞学会 理事/編集委員  
日本腎臓財団 CKD対策推進委員  
NPO法人日本腎臓病協会 理事

日本内科学会認定医・専門医・指導医  
日本腎臓学会専門医・指導医  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本再生医療学会認定医  
日本高血圧学会専門医・指導医  
日本医師会認定産業医

## 所属学会

日本内科学会・日本腎臓学会・日本透析医学会・日本再生医療学会・  
日本ヒト細胞学会・日本遺伝子治療学会・日本痛風・尿酸核酸学会  
American Society of Nephrology・International Society of Nephrology  
European Nephrology・International Society for Stem Cell Research

## 受賞

慈恵医大基礎賞、臨床賞、慈大賞 平成3年  
慈恵医師会奨励賞 平成12年  
大島賞(日本腎臓学会賞) 平成14年  
第9回分子腎臓研究会優秀研究賞 平成15年  
東京都医師会医学研究賞 平成17年  
国際腎臓学会(ISN) Young Scientist Award 平成17年  
第11回分子腎臓研究会研究奨励賞 平成17年



## 編集後記

計画、実施、評価、分析。物事を改善していくために、このPDCAサイクルを回すことが重要であることは広く知られています。これまでPDCで構成されてきた大学基準認証評価においても新たに「内部質保証」という「Act」が取り入れられ、本学では教育、研究、医療、管理運営の4分野での質保証を推進しています。

今号では、この「PDCからPDCAへ」という2023年受審予定の大学基準認証評価に向けた取り組みを伝えるとともに、コロナ禍で延期された第三病院リニューアル事業の基本計画ならびに基本設計、肝がんにおける新しいタンパク質分泌様式の発見と創薬への取り組み、2020年度から取り入れたオンデマンド授業のメリットとデメリットの分析、2021年2月から新たに始まった「CAR-T療法」など、本学で進められている数多くのトピックスをご紹介します。本誌を通して本学の状況をご理解いただき、今後ともご支援いただければ幸いです。

本誌では本学に関係する皆さまと価値観や方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしてまいります。より役立つ法人誌にするため、是非、本誌をご覧ください、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

法人広報委員会委員長 浅野 晃司

発行 学校法人 慈恵大学  
発行人 理事長 栗原 敏  
連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8  
学校法人 慈恵大学 広報課  
TEL 03-3433-1111(大代表)  
FAX 03-5400-1281  
e-mail koho@jikei.ac.jp  
号数 第36号  
発行日 2021年8月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>